

新版『小学社会』代表監修者3名の期待の新刊!!

社会科の新しい使命

～『小学社会』のめざすもの～

発行元：日本文教出版株式会社
定 価：(本体価格¥2,000+税)
仕 様：A5判, 196ページ
発行日：2013年11月1日



著 者



池野 範男
広島大学教授。専門は教育学(社会科教育)。1998年から『小学社会』編集委員。



的場 正美
名古屋大学名誉教授。専門は教育方法学。1990年から『小学社会』編集委員。



安野 功
國學院大学教授。前文部科学省教科調査官。学習指導要領の改訂に携わる。

平成27年度版小学校教科書特設Webサイトのご案内



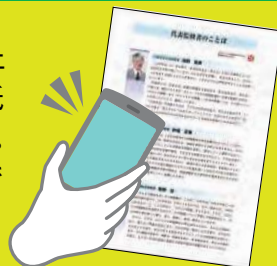
掲載内容

- ◆新しい教科書の表紙, ポイント, 著作者など
- ◆「内容解説資料」や「教科書検討の観点から見た特色」などの各種ダウンロード資料
- ◆平成27年春に発売予定のデジタル教科書の詳細
- ◆イメージ映像や著者メッセージなど, 新しい教科書に関連した動画のコーナー

今すぐ日本文教出版 Web サイトへ!

この広報誌は, スマートフォンやタブレットをかざすと動画が楽しめます!

- 「カザスマート」アプリを立ち上げ, マークがあるページで紙面にかざすと, 動画が始まります。
※動画は, 2014年8月31日まで視聴することができます。



- 専用アプリ「カザスマート」をダウンロード下さい。



社会科 *navi* Vol.7

日文教育資料[社会]

平成26年(2014)5月1日発行

編集・発行人 佐々木秀樹

発行所 日本文教出版株式会社

〒558-0041 大阪市住吉区南住吉4-7-5

TEL: 06-6692-1261

本書の無断転載・複製を禁じます。

CD33235

日本文教出版 株式会社

<http://www.nichibun-g.co.jp/>

大 阪 本 社 〒558-0041 大阪市住吉区南住吉4-7-5
TEL:06-6692-1261 FAX:06-6606-5171

東 京 本 社 〒165-0026 東京都中野区新井1-2-16
TEL:03-3389-4611 FAX:03-3389-4618

九 州 支 社 〒810-0022 福岡市中央区薬院3-11-14
TEL:092-531-7696 FAX:092-521-3938

東 海 支 社 〒461-0004 名古屋市東区葵1-13-18-7F-B
TEL:052-979-7260 FAX:052-979-7261

北海道出張所 〒001-0909 札幌市北区新琴似9-12-11
TEL:011-764-1201 FAX:011-764-0690

社会科 *navi*

日文教育資料[社会]

2014
Vol.7



もくじ 平成27年度用『小学社会』教科書特集号

- 代表監修者のことば
 - 教科書内容見本で解説
 - 授業づくりのための教科書活用のヒント
- すぐわかる! よくわかる! 新版『小学社会』……………1
- 『小学社会』代表監修者 安野功……………22

●PICK UP 注目の単元……………30

- 3・4年 「ごみのしまつと活用」
「県の人々の暮らし」
- 5年 「自然災害から人々を守る」
- 6年 「今に伝わる室町の文化と人々の暮らし」
「江戸の社会と文化・学問」

●授業力アップをサポート! 教師用指導書・デジタル教科書のご案内……………38

日文の実践事例、教科情報

詳しくはWebへ!

未来をになう子どもたちへ
日本文教出版

代表監修者のことば

このページに画面を合わせると、動画が始まります。



広島大学大学院教授 池野 範男

『小学社会』は、社会科を「社会的な見方・考え方」を育てる教科ととらえ、市民社会を取り扱っています。みんなが幸せを願い、社会を作ること、そのような社会を大切にするを基本に、子どもたちに公共性を育てることを目指しています。

具体的には、小単元は、評価の四観点を包括する「社会的な見方・考え方」に基づき、設計しています。そして、子どもの問題意識が、学習の展開に合わせ、「わたしの問題」から「わたしたちの問題」、「社会の問題」へと、より高いレベルに育っていくよう、構成しています。

『小学社会』の目指すものは、子どもの社会的な見方・考え方の成長です。子どもの見方・考え方のレベルが上がっていくことで、社会の在り方を学び、社会はみんなの幸せのために作るものだという公共性の育成につながるのです。



名古屋大学名誉教授 的場 正美

『小学社会』は、子どもが追究する問題解決学習を特徴のひとつとしています。問題解決学習は、授業の方法でも、知識を習得する手段でもありません。自分たちの視野に入っている具体的な問題を追究し、解決していく過程のなかで、基礎的・基本的な知識や概念、さまざまな技能を自分の力とし、それを活用する能力を身につけ、社会をよりよく作り変える人間を育てようとしています。

子どもの素直な気づきを大切に、既成の考え方を多角的・多面的にとらえ直し、まわりの友達や地域の人たちとの討論を通して自分なりの考えを練り上げていく問題解決学習の理念は、知識基盤社会と呼ばれる現代社会に子どもが参画し、変革していく基盤になります。



國學院大學教授 安野 功

“みんなで知恵を出し合う問題解決”これが、『小学社会』のめざす新しい社会科学習の姿です。『小学社会』で学ぶ子どもたちは、まず「素朴な目」で社会にあるもの・人・ことに出会い、「わたしの問題」をもちます。子ども一人ひとりの問題解決を保障するのが、その問題について予想し学習計画を立て、自分の体と頭を使って調べ、考え、表現し、追究・解決していきます。

さらに、子ども一人ひとりの問題解決の質を高めるために、みんなで知恵を出し、話し合う問題を設定します。それを吟味・検討し合う学習や、その学びを大きくふり返り、自分の考えを記述するダイナミックな言語活動を大切にします。その過程で思考力、判断力、表現力を育て、社会的な見方・考え方の成長を促し、よりよい社会の形成に参画する資質や能力の基礎を育てていくのです。

教科書内容見本で解説

すぐわかる！よくわかる！新版『小学社会』

もくじ

教科書掲載の各コーナーや特設ページなどの役割がひとめでわかります。

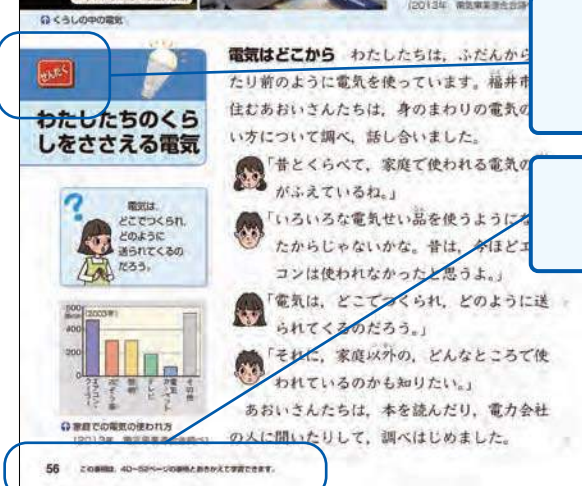
各コーナーや特設ページなどを示すマークとともに、その役割について、わかりやすく解説しています。また、それらがひとめでわかるよう、もくじページに掲載しました。

いわゆる発展的な学習は、「大きくジャンプ」ページで取り扱っています。また、当該学年の学習指導要領の範囲を超える内容については、「カンガルー」マークをつけ、子どもや先生方にもわかりやすく示しています。

「学び方・調べ方コーナー」については、その一覧をもくじに掲載し、もくじから検索ができるようにしています。



↑3・4年下表2～※1



56 この事例は、40～52ページの事例とおきかえて学習できます。

⇨3・4年下 P.56 学習指導要領の「内容の取扱い」に示される、いわゆる選択事例については、「せんたく」マークを掲載しています。また、紙面の下にどの小単元と差し替えが可能かも記述しています。

問いの旅、 この教科書のしくみ

社会科での学習の進め方や教科書構成・紙面要素をわかりやすく示しました。

問題解決的な学習過程をわかりやすく示した「問いの旅」、そして「この教科書のしくみ」では、問題解決的な学習過程を反映した教科書構成や紙面要素について説明しています。

「問いの旅」と「この教科書のしくみ」を学習することで、子ども一人一人が教科書を効果的に活用しながら、問題解決的な学習を主体的に進めることができます。

問いの旅

わたしたち4人は、これからみなさんと一緒に学んでいきます。よろしくね。



出会う



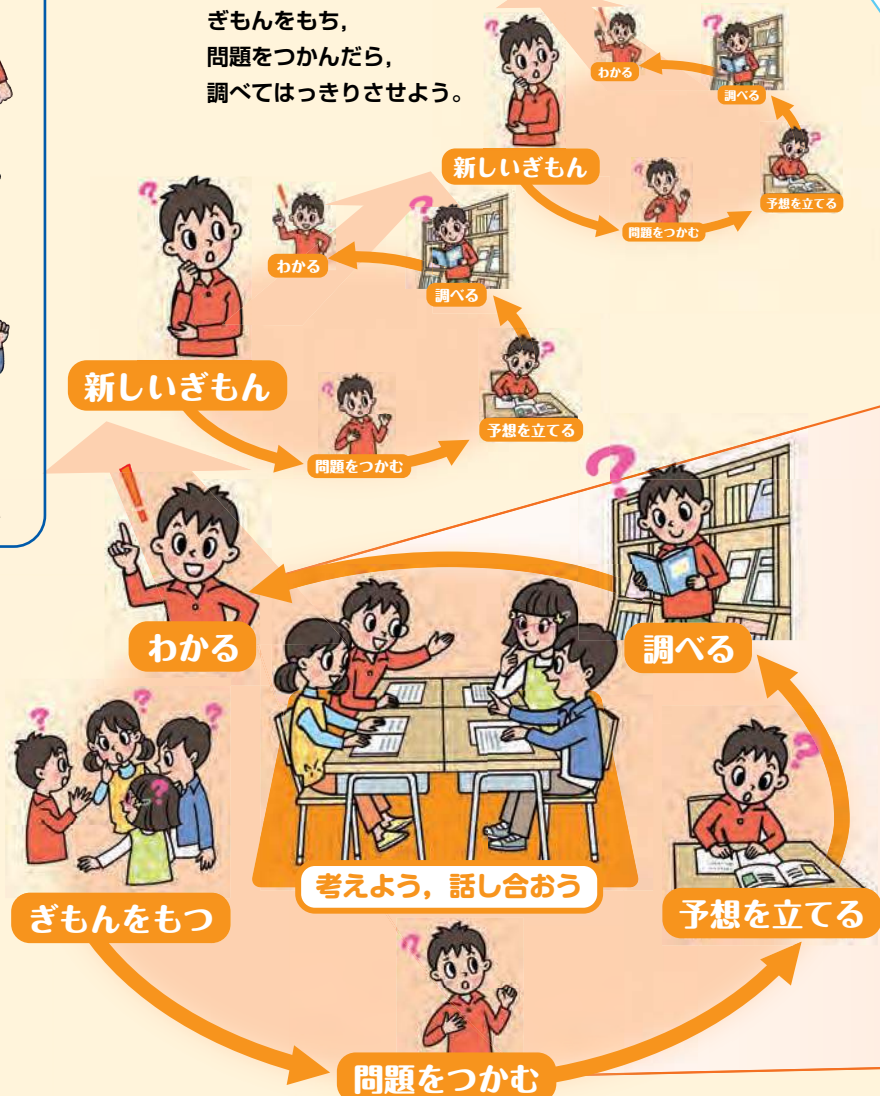
※2

『小学社会』は、子ども一人一人が主体的に問題解決的な学習を進めることを大切に考えています。そのため、一人一人が問題を持ち、その問題から予想し、学習の見通しを立て、問題を解決するために、自分なりの方法で追究する姿を例示しています。

ふりかえり、表現する



ぎもんをもち、
問題をつかんだら、
調べてはっきりさせよう。



この教科書のしくみ

ふりかえってみよう

小単元の終末に設定しています。小単元末の「ふりかえる」学習活動の事例の一つとしてご活用いただけます。(本誌 P.14～15)

ふりかえってみよう

最後に、どんなことを、どんな方法で学習したのかや、学習してわかったこと、自分の考えをふりかえってみよう。



話し合いや新聞づくり、ふりかえりシートへのかきこみなど、いろいろな方法でふりかえってみよう。

「わたしの問題」～「わたしの見方・考え方」のまとまりを、何度かくりかえして、学習を進めていくよ。

わたしの問題

わたしがとくに気になるぎもんだよ。あなたも、自分の? (はてな) を見つけよう。



わたしの見方・考え方

わたしがこれまでの学習でわかったことだよ。あなたは、どんなことがわかったかな。

いろいろな種類のごみが、家や学校など、さまざまなところから出ているんだね。ごみのしよりのしかたを調べてみたい。

わたしたちの市のごみは、どのようにしよられているのだろう。みんなで話し合ったり、考えたりしたいことだよ。

学習を進めるうえで、特に重要な紙面要素について解説しています。

※3

大単元導入

大単元で学習する内容について、子どもの興味・関心を高め、追究しようとする意欲をもたせます。

大単元導入では、この大単元で学習する内容と自分たちの生活との関わりに気づき、興味・関心を高めることができるような資料を掲載しています。

子どもたちが資料を見て疑問や気づきをうかばせることで、これからの学習を意欲的に学習できるような構成となっています。

ワイドな紙面で資料を効果的に配置

判型は、A B判を採用。ワイドな紙面で、写真やイラストなどの図版もダイナミックに提示することができます。

キャラクターたちの発言では、社会的事象を見た子どもたちの素朴なつぶやきや疑問を例示しています。

4

住みよい暮らしをつくる

家庭での暮らし



水道の水は、どこから来ているのだろう。



使ったあとの水は、どこへ行くのだろう。



まちで働く人々のようす



ごみステーションのごみを集める人たち



集めたごみって、どこに持っていくのかな。



電気工事をする人



下水道工事をする人たち



ガス工事をする人たち

家庭や学校でのくらしや、まちで働く人たちの仕事の写真を見てみましょう。

わたしたちが何げなくすごしているくらしは、さまざまな人の活動や、しくみにささえられているようです。注意して見直してみると、今まで気づかなかったことが見えてきます。

学校での暮らし



学習のまど

毎日わたしたちが使っている水道・電気・ガスが、もし使えなくなったらどうなるのでしょうか。そして、ごみも集めてもらえない、使ったあとの水も流せないとなったら、どのような暮らしになるのでしょうか。考えてみましょう。

本文では、図版の説明や子どもたちが図版からさまざまな疑問をうかべるためのヒントとなる内容を提示しています。

学習のまど

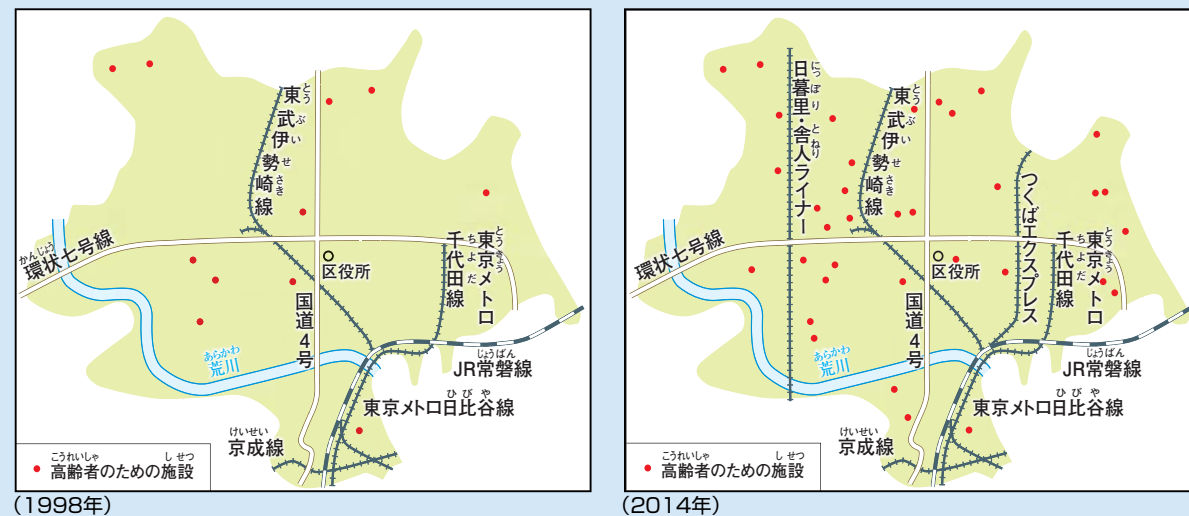
新しい学習のスタートにあたり、子どものこれまでの知見を想起させるなどして、学習への興味・関心を喚起させようとしています。

小単元の展開 導入ページ

子どもと学習内容を結びつけるような資料や生活経験を提示することで、学習の見通しがもてるようにしています。

比較して考える

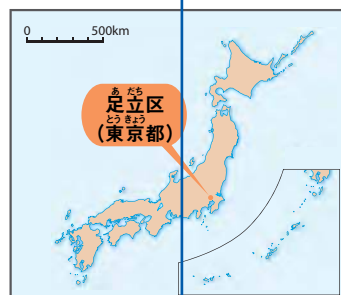
資料を比較して考えることで、高齢者のための施設の数の変化に気づかせます。



足立区の高齢者のための施設の変化

1 わたしたちの 願いと政治の はたらき

くらしの変化とともに、どのような願いが生まれてきたのだろう。



4

増える高齢者 東京都足立区に住むあおいさんは、地域にある千住桜花苑という高齢者のための施設が、昔、お母さんの通っていた中学校があった場所であることを知りました。2000年(平成12年)ごろから、地域に住む子どもが少なくなり、近くの中学校と統合されたそうです。しばらくしてこの施設はできましたが、同じような施設が、ほかの地域にも増えてきたそうです。

「高齢者のための施設が、最近では、いたるところで見られるようになったね。」
「わたしの祖母は、千住桜花苑のお風呂を利用しに行くこともあるけれど、足が不自由なので、施設の人が車でむかえにきてくれるよ。」
「どうして、こんなにたくさんの施設ができるようになったのかな。」
「高齢者に関わる法律が変わったことにも、原因があるらしいよ。」

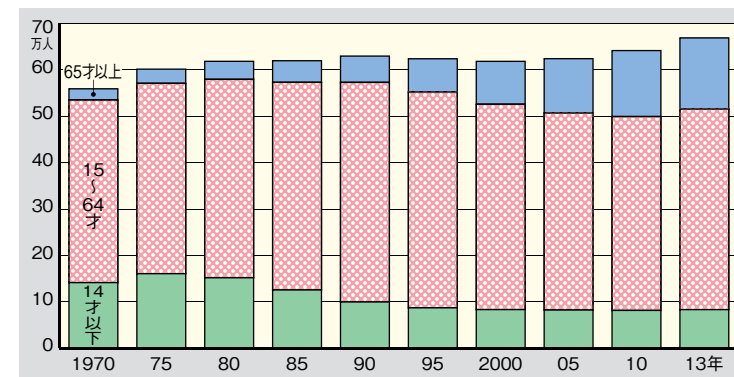
わたしの問題

これまでの学習のなかで生まれた「特に気になる疑問」や「すぐ調べたいこと」をメインキャラクターの子どもが発言するかたちで示しています。

大単元での問題意識を受けて小単元の学習がスタートします。
小単元の導入ページでは、学習対象と自分との関わりに気づき、多様な疑問や気づきが生まれるような、資料や生活経験の例示を掲載しています。

やってみよう

学習をより確かなものにするために、調べたり、作業したりする活動を例示しています。



あおいさんたちの地域だけでなく、足立区全体で、子どもの人数が減り、高齢者の割合が高くなっていることがわかりました。

高齢者が多い社会では、そのような人たちが安心してくらしたいという願いも高まっています。

しかし、今日では、核家族化が進んだり、共働きの家庭が増えたりして、高齢者の世話ができる人が少なくなっています。

あおいさんたちは、このような高齢者の福祉について、調べてわかったことや考えたことをノートにまとめました。

- | ●調べてわかったこと | ●わたしの考え |
|--------------------------------------|------------------------------------|
| ・現在の日本では、核家族化が進み、ひとりぐらしの高齢者の数が増えている。 | ・高齢者が、安心してくらす社会のしくみをつくる必要がある。 |
| ・高齢者の数は、これからも増え続けることが予想されている。 | ・高齢者のために、わたしたちの区が進めている取り組みを調べてみたい。 |

あおいさんのノート

子どものノート

ここでは「調べてわかったこと」とそこから生み出された次時へつながる疑問もふくんだ「わたしの考え」を分けて書くノートを例示しています。

あなたの住んでいる地域の年齢区分別人口がどのようになっているかを調べてみよう。また、将来の年齢区分別人口がどのように変化するかを予想してみよう。

高齢者

一般的には、65才以上の人のことを高齢者といいます。65才以上75才未満を前期高齢者、75才以上を後期高齢者と区分することもあります。

核家族

夫婦だけ、または、親と子どもだけで構成される家族のことです。

福祉

すべての人に同じようにくらすことができるようにするために、さまざまな社会的な取り組みを社会福祉といいます。

キーワード

むずかしいことば

単位や難解な言葉を解説しています。

5

小単元の展開 追究ページ①

「わたしの問題」を「みんなで話し合いたいこと」へ高める授業をとおして思考力・判断力・表現力を育成します。

子どもたちが各自の追究活動のなかで生まれた「わたしの問題」を出し合い、話し合うことでうかびあがった「みんなで話し合いたいこと」をつかみます。

このような見通す学習活動をとおして、思考力・判断力・表現力が高まり、一人一人がさらに質の高い問題解決的な学習を進めることができます。

わかりやすい中心資料

資料から事実を的確に読み取ることから、気づきや疑問が生まれます。そのため中心資料については、それとわかるよう大きく掲載し、読み取りやすいよう配慮しています。

? ふだん食べている米は、どこで作られているのだろう。



スーパーマーケットの米売り場

米ぶくろにある、産地の表示を調べてみよう。

名 称	精 米	
	産地	品種
原料玄米	山形県庄内	つや姫
	産年	使用割合
	本表示の反対面下部に記載	100%
内容量	10kg	
精米年月日	本表示の反対面下部に記載	
	〇〇株式会社 〇〇市〇〇区〇〇町〇〇番地〇〇	

米はどこから はるとさんたちは、米の産地や商品名などについて、米のふくろや折りこみちらしを持ちよったり、店の米売り場を見学したりして調べました。

「わたしの家では、山形県で作られた、『つや姫』という米をよく買っているよ。」

「給食では、わたしたちの県で作られた米を使っているそうだよ。」

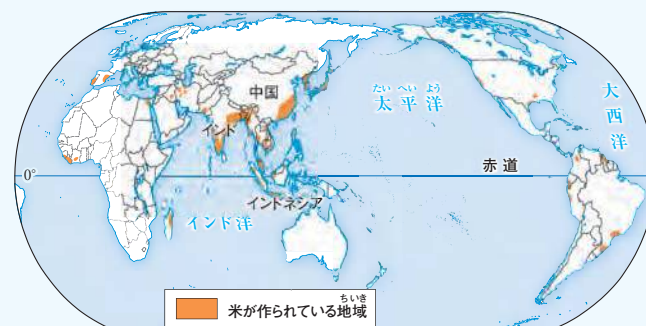
「調べると、いろいろな産地で作られているね。米は日本のどこででも作られているのかな。」

学習資料 世界の米どころはどこ？

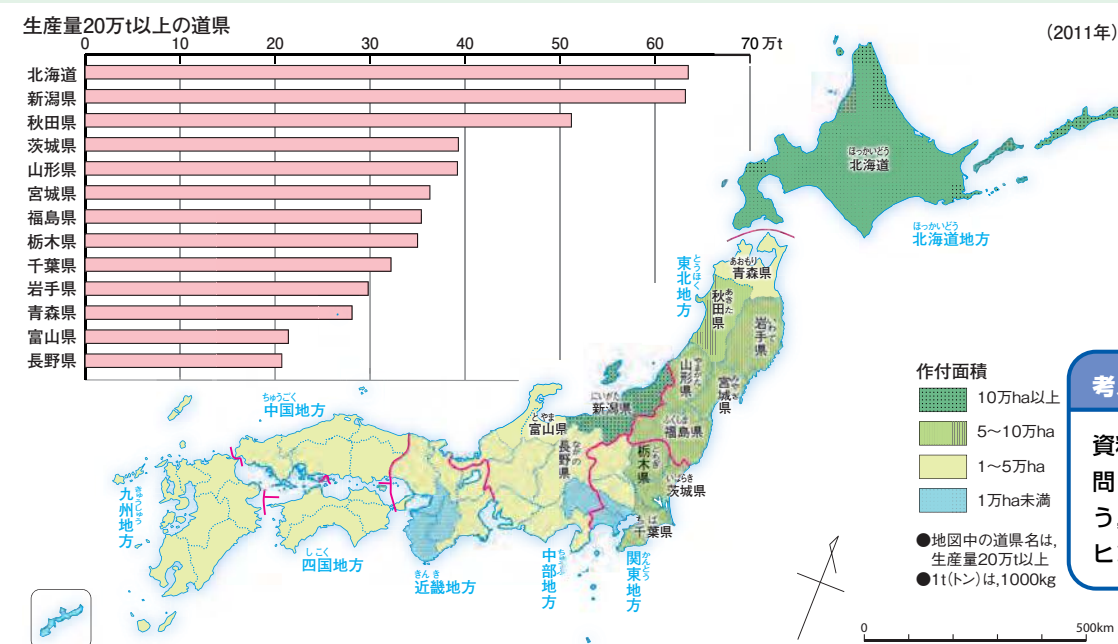
いねは、もともと赤道を中心とした、1年じゅう暑く、水が豊かな土地でよく育つ植物です。

日本では、2400年ほど前に米作りが伝わったといわれています。

現在、世界では、日本のほかに中国、インド、インドネシアなどの国々で、さかんに作られています。



米が作られている地域



米の生産量と作付面積（2013年 農林水産省調べ）

考えるヒント

資料から事実や気づき、疑問などが生み出されるよう、資料を読み取るためのヒントを提示しています。

考えるヒント

米作りは、どんなところでさかんだろうか。

はるとさんたちは、都道府県別の米の生産量や作付面積を調べ、気になることを出し合いました。

「米は、全国で作られているよ。特に、北海道や東北地方が多いのは、なぜだろう。」

「あたたかいところでよく育つねが、なぜ寒いところで作られているのかな。」

はるとさんたちは、出てきたぎもんを整理しました。そして、米の生産量が多く、寒いところにある地域から山形県庄内平野を選んで、土地のようすや気候と米作りの関わりについて調べることにしました。

山形県庄内平野では、なぜ、米作りがさかんなのだろう。

日本では、米が主食として食べられてきた。そして、米は日本全国で生産されているけれど、北海道や東北地方でさかんに作られていることがわかった。

わたしの見方・考え方①

複数の「わたしの問題」を追究したうえで獲得した事実やその社会的意味についての認識を示しています。※小単元の中には、学習内容のまとまりがあり、その内容を獲得していくための問題解決のサイクル（次）があります。「わたしの見方・考え方」は、「次」の最終ページに示されています。

みんなで話し合いたいこと①

一人一人の「わたしの問題」を話し合うなかで焦点化され、共有化される問題です。

小単元の展開 追究ページ②

確かな理解と基礎的・基本的な知識の確実な定着をはかるための手立てを示しました。

基礎的・基本的な知識を定着させる手立てとして、本文中の社会科用語を太字で示し、合わせて「キーワード」コーナーで解説をしています。また、「考えて身につける知識（概念的な知識）」については、「わたしの見方・考え方」で提示することで、確かな理解をはかれるように配慮しています。

↓ 5 年上 P.78 ～ 79

関連させて考える

「ごんあじ」の輸送の流れを示す写真と高速道路の分布地図を関連させて読み取っていくことで、輸送の働きをとらえることができます。



選別作業

出荷準備

漁協を出発し、東京の築地市場まで輸送する



築地市場から仲おろし業者に輸送する

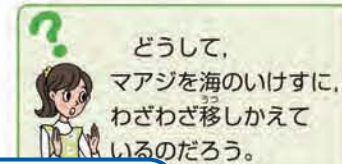
「仲おろし業者」は、市場で食料品などを買い、店などへ販売する業者のこと。

デパートまで輸送する

デパートの魚売り場

価格や費用

この資料から、マアジを「ごんあじ」としてブランド化することで高い値段で売れることを読み取ることができます。



〇〇さんの話

働く人に電話や手紙で話を聞いたり、インタビューしたりした内容などを提示。社会で働く人々の工夫や努力、その働きを実感的にとらえることができます。

「ごんあじ」の名前で出荷するには、五島灘とれたアジであること、「いかしこみ」をすること、重さが250g以上あることなどの条件を満たす必要があります。

ブランド化

魚や野菜など、地元でとれる商品に大きさや重さなどの独自の基準を決めて、商品としての価値を高めること。

マアジから「ごんあじ」へ ゆいさんたちは、海のいけすに移しかえられたマアジについて、漁協の松下さんに手紙でたずねることにしました。

新三重漁業協同組合の松下さんの話

海で泳いでいたマアジが、急にせまいいけすに入られると、ストレスを感じ、弱って味が落ちてしまいます。そこで、海のいけすで1週間ほど、えさをあたえず泳がせる「いかしこみ」をすると、しだいに落ち着き、あぶらののった、ひきしまったおいしい身になるのです。漁協では、決められた条件に合ったマアジを選別し、「ごんあじ」という名前をつけ、**ブランド化**して関東方面に出荷しています。「ごんあじ」は、たいへん質のよいアジと評判です。

「漁師さんたちが、手間ひまをかけて『いかしこみ』をしたのが『ごんあじ』なんだね。」
「漁協では、年間を通して同じねだんで取引してくれる業者に出荷しているそうだよ。」

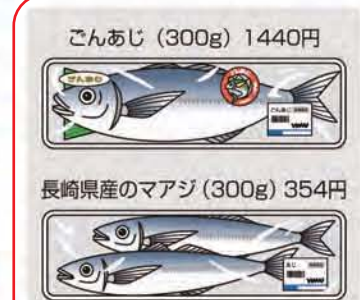


高速道路の分布 (2013年 西日本高速道路株式会社調べほか)

「ごんあじ」は、温度管理ができるトラックで東京の築地市場に輸送された後、別のトラックで仲おろし業者へ輸送され、デパートへと届けられます。

ゆいさんたちは、これまでの学習をふりかえり、水産業でも米の学習と同じように、漁かく量や働く人の問題などがないのか、調べることにしました。

日本の水産業には、どのような問題があるのだろうか。



ある日の「ごんあじ」と長崎県産のマアジのねだんのちがい

水産業のさかんな地域では、漁港などのしせつを整え、魚の種類に応じた方法でとる漁業をおこなっている。水産業にたずさわる人々は、安定した水あげを確保し、収入を増やすために、魚群探知機などを活用したり、魚のブランド化に取り組んだりしているんだね。

キーワード

78

基礎的・基本的な知識の一つとなる社会科用語については、「キーワード」コーナーでくわしく解説しています。

社会科用語をわかりやすく！

本文中にあるキーワードで例示した社会科用語については、知識として習得できるように太字で示しました。

みんなで話し合いたいこと②

一つ目の「みんなで話し合いこと」を追究していくと、また一人一人の素朴な疑問や問いが生まれます。それらの「わたしの問題」を追究し、話し合うなかで焦点化され、共有化されて生まれた二つ目の「みんなで話し合いこと」です。

わたしの見方・考え方②

複数の「わたしの問題」を追究したうえで獲得した事実やその社会的意味についての認識を示しています。

どのような資料の提示から素朴な気づきや疑問が生まれるのか。また、子どもたちは、どのような社会的見方・考え方を獲得し、成長していくのか。

これらの授業づくりの核心となる内容が、学習の展開や「わたしの問題」、「みんなで話したいこと」、「わたしの見方・考え方」などをたどることで理解できるようになっています。

3・4年上 P.18～19

わたしの問題

これまでの学習のなかで生まれた「特に気になる疑問」や「すぐ調べたいこと」をメインキャラクターの子どもが発言するかたちで示しています。

地図を見て話し合う

あおいさんたちは、できあがったまち全体の地図を見て、自分たちのまちの土地のようすについて、まちたんけんをしたことも思い出しながら話し合うことにしました。

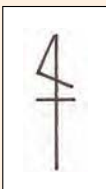
わたしたちのまち、どのようなまちといえるのだろう。



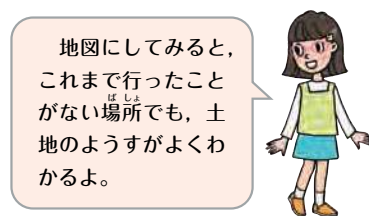
学び方・調べ方コーナー
表現する

地図のつくり方

- 地図は、ふつう北を上にしてつくる（北をさすしるしをかきこむ）。
- 目じるしとなるたてものを北をさすしるしでかきこむ。
- 家や店など、同じたてものが集まっているところを色でめり分ける。
- 田や畑が広がっているところは、地図記号と色であらわす。
- 地図記号でかけないたてものや土地のようすは、字をかいてもよい。
- きまりがわかるめもりがついたものさしをかきこむ。



色分けしたことで、どこにどのようなものがあるか、ひと目でわかるようになったね。



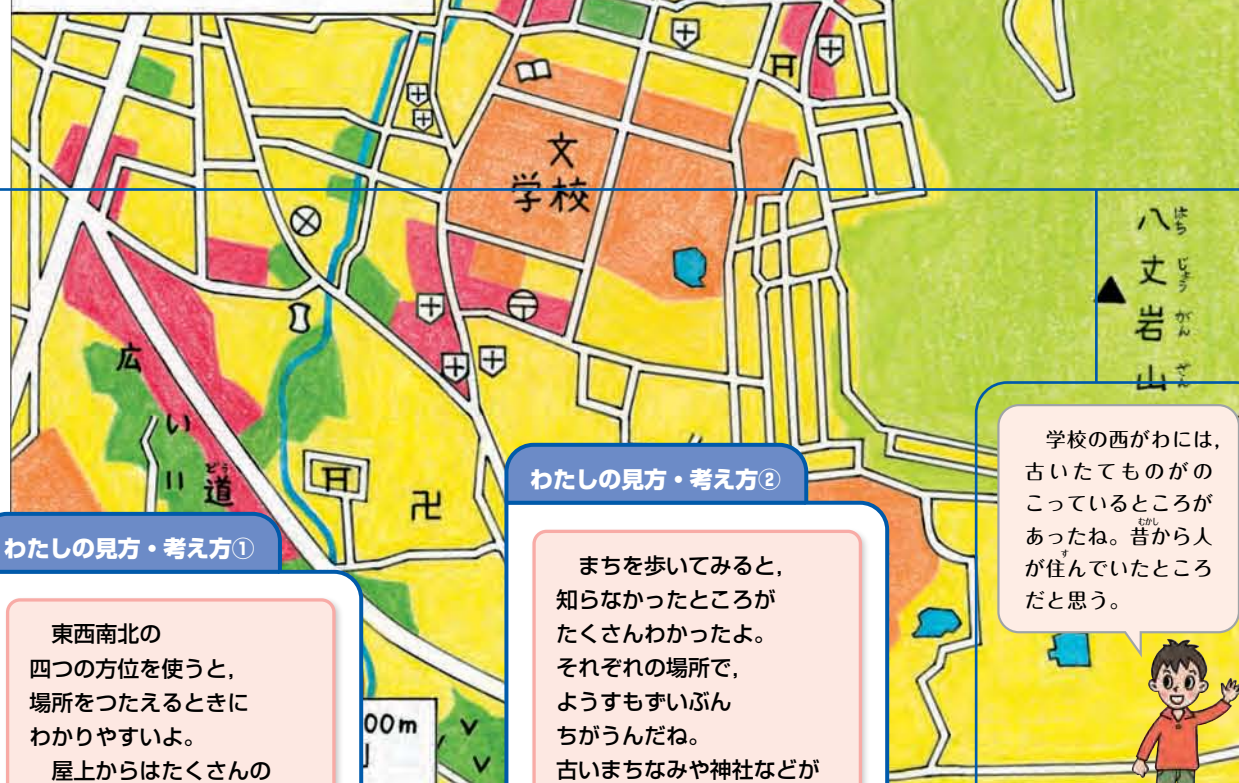
地図にしてみると、これまで行ったことがない場所でも、土地のようすがよくわかるよ。



わたしたちのまちには、住たくが多いといえるね。ところどころに店や畑があるね。

文学校 病院
ゆうびん局 銀行
けいさつ 図書館
神社 寺
田 畑

山
住たくが多いところ
店が多いところ
田や畑が多いところ
学校・公園・その他



わたしの見方・考え方①

東西南北の四つの方位を使うと、場所をつたえるときにわかりやすいよ。
屋上からはたくさんものが見えるけど、くわしいことは行ってみないとわからないね。



3・4年上 P.7

わたしの見方・考え方②

まちを歩いてみると、知らなかったところがたくさんわかったよ。それぞれの場所で、ようすもいろいろちがうんだね。古いまちなみや神社などがたいせつにのこされていることもわかった。



3・4年上 P.15

学校の西がわには、古いたてものがのこっているところがあったね。昔から人が住んでいたところだと思う。



わたしの見方・考え方③

複数の「わたしの問題」を追及したうえで獲得した事実やその社会的意味についての認識を示しています。この「わたしの見方・考え方」が小単元でたどりついた最終の見方・考え方になります。

話し合い活動の重視

まちたんけんをしてつくった地図をもとに、地図づくりのよさや自分たちのまちがどんなまちなのか話し合います。

東がわは、急な坂になっていたね。わたしたちのまちの、東がわや北がわには、土地の高いところが多いね。



西の広い道路のそばには、大きな店がたくさんあるよ。遠くから車で買いに来るのだろうね。



土地のようす

自分たちのまちがどのようなところかを考えるとき、土地のようすをつけると、土地のようすをわかっていきます。
①土地の高さ…高いところはどこか
②土地の使われ方…どこが田や畑のようす、土地がおもに何に使われているかを調べる。

友だちの発言

サブキャラクターを通してさまざまな疑問や個性的な見方・考え方を示し、メインキャラクターの追究にゆさぶりをかけます。

わたしたちのまちには、土地の高いところや、ひくいところがあり、住たくの多いところや、田畑の多いところなど、使われ方にもちがいがあることがわかった。



学び方・調べ方コーナー

観察や調査、資料の読み取り、表現活動に関わる学習技能を掲載しました。

ふりかえってみよう

「ふりかえってみよう」で、よりよい社会の形成や社会へ参画するための資質や能力の基礎を育成します。

小単元末にこれまでの学習をふりかえる活動をおこなう「ふりかえってみよう」を新設しました。また、ふりかえりの活動として下の活動を設定しました。

このページでは、各小単元で学んだことを活用した言語活動を通して、学習内容を確実に定着させるとともに、思考力・判断力・表現力を育成することをねらいとしています。



ステップ
4

自分の考えを
言葉で表し、
聞き合う活動

小単元を学習してきたなかで出てきた話したい問題について、これまで学んだことを活かしながら、表現物を根拠にし、自分の考えを发表或し、友だちの考えのよさを受け入れたりして聞き合う活動を例示しています。



↑ 5 年上 P.68 ~ 69

ステップ
3

学び取ったことを
表現物に
書き表す活動

これまでの学習をふりかえり、あらかじめ自分で決めておいた、新聞や紙しばいなどの表現物にまとめる学習活動です。



↑ 5 年下 P.96 ~ 97



新聞

紙しばい



↑ 3 ・ 4 年下 P.118 ~ 119



↑ 5 年下 P.84 ~ 85

ステップ
1

学習の順序通りに
ふりかえる活動・
学習の成果や
調べ方、学び方を
ふりかえる活動

ステップ1は、二つのふりかえりの活動を設定しています。「学習した順序通りに学習内容をふりかえる活動」は、最もやさしいふりかえりの活動として、各学年の最初の小単元に設定しています。

学習の成果や調べ方、学び方をふりかえる活動



↑ 3 ・ 4 年下 P.92 ~ 93

学習の順序通りにふりかえる活動



↑ 3 ・ 4 年上 P.20 ~ 21

ステップ
2

自分の考えを
「ふりかえりシート」
にまとめる活動

これまでの学習をふりかえり、「ふりかえりシート」にまとめる活動です。「ふりかえりの手順」とシートにまとめる際の「一人学習のめあて」も示すことで、スムーズに学習を進めていくことができます。

ふりかえりの手順

- ①黒船の来航から、明治維新までのできごとを年表でふりかえる。
- ②幕末の人物の関係について、もう一度ふりかえる。
- ③右のふりかえりシートに進み、人物を選んだら、キーワードを入れて、選んだ理由を書く。

◆一人学習のめあて
人物を選んだ理由のなかに、自分の考えを書く。



↑ 6 年上 P.112 ~ 113



↑ 5 年下 P.41

このページは、国土の学習を終え、国土の範囲がどこまでなのか気になった、はるとさんの一人学習の内容です。日本の排他的経済水域について調べるうちに、近年、注目されている日本周辺の海底にあるレアメタルやメタンハイドレートなどのさまざまなエネルギー資源や鉱産資源について気づき、その価値について考える内容となっています。

「カンガルー」マーク

当該学年の学習指導要領の範囲を超える内容のページには、このマークをつけています。



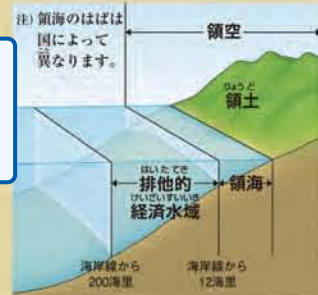
日本の海底資源

はるとさんは、国土の学習を終えて、日本のまわりが海に囲まれていることがわかりました。

そこで、どこまでが日本の海なのかや、海には魚のほかにもどのような資源があるのかをくわしく調べることになりました。

国土の学習で学んだ領海の外側には、魚などの水産資源や天然ガス・石油などの鉱産資源を自分の国だけで利用できる、排他的経済水域という海のはんいがあります。

排他的経済水域について調べる



④領土・領空・領海・排他的経済水域のはんい「海里」は、船が進んだきよりや、海の上のきよさをあらわす単位です。1海里は約1850mで、200海里は約370kmになります。

日本は、領土の面積よりも排他的経済水域のほうが広いだね。
この広いはんいをうまく利用できないかな。



④日本の国土のはんいと排他的経済水域



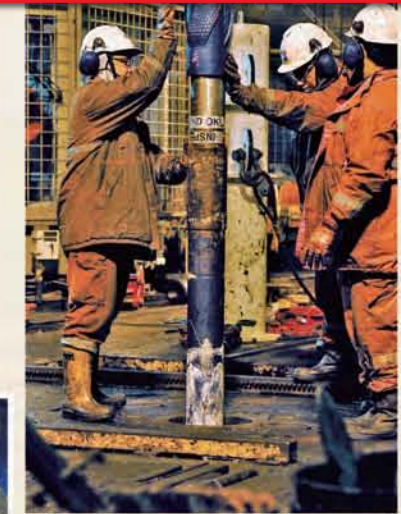
④おもな国の領土と排他的経済水域の面積（海上保安庁調べほか）

科学探査船

メタンハイドレート
をふくむ地層



④メタンハイドレートをふくむ地層をほり出す作業



海底資源について調べる

日本にとっての海底資源を考える

海底にある資源を開発することは、日本にとって、とてもたいせつなことなんだね。



はるとさんが調べると、最近、日本の排他的経済水域に、さまざまなエネルギー資源や鉱産資源があることがわかりました。

日本のまわりの海底には、「燃える氷」とよばれるメタンハイドレートをふくむ地層が広がっています。メタンハイドレートは、天然ガスと同じメタンをふくんでおり、新しいエネルギー資源として注目を集めています。2013年（平成25年）には、海洋研究開発機構の科学探査船が、愛知県沖の水深約1000mの海底にあるメタンハイドレートから、メタンガスを取り出すことに世界ではじめて成功しました。

また、海底にはレアメタルとよばれる貴重な鉱産資源もあることがわかっています。レアメタルは、携帯電話やコンピューター、電池の部品にかかせないさまざまな鉱産資源で、現在は中国や南アフリカ、ロシアなどで産出されています。

このような海底の資源開発については、環境をよごさずに海上で生産する技術の開発などの問題も残っています。

日本は、エネルギー資源や鉱産資源の少ない国です。そのため、このような海底資源を安定的に取り出すための技術の開発が期待されています。



④海底にある、レアメタルとよばれる鉱産資源をふくんだかたまり

追究活動やふりかえりの活動などのさまざまな学習場面で活用することができます。

教科書で登場した地名は、地図で示しています。

さくいん

教科書に出てきたキーワード

エネルギー	27
給水量	42
高原	131
交番	88

キーワード

資源

ものをつくったり、電気をおこしたりするときのものになる、原料や燃料のこと。

エネルギー

あるはたらきをすることのできる力。光や電気、太陽の熱なども、エネルギーです。

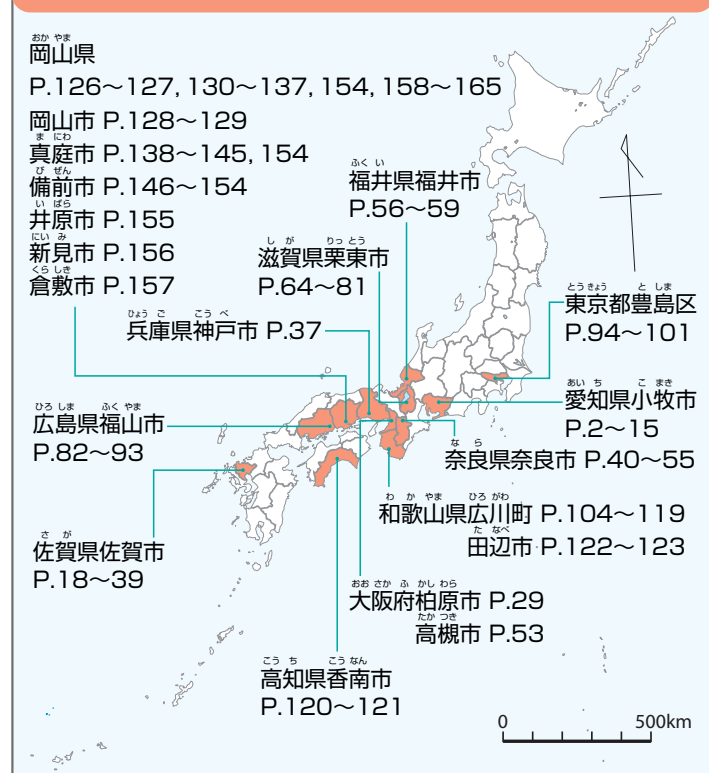


身のまわりにあるさまざまなエネルギー

↑ 3・4年下 P.27 イラストなども合わせて掲載することで、視覚的にも理解が深まるよう工夫しています。

輸出	160
輸入	160
リサイクル	28

教科書に出てきたおもな地名



教科書に出てきたおもな国名

アメリカ合衆国 (アメリカ)	50, 115, 159, 162, 163
インド	159
オーストラリア	159, 160, 163
コスタリカ共和国	159
シンガポール	161
大韓民国 (韓国)	159, 160, 162, 163
中華人民共和国 (中国)	115, 158, 159, 160, 161, 162, 163
ドイツ	153
ブラジル	160, 163
ブルガリア共和国	159
ロシア	160

さくいん

のマークは、教科書に出てきたキーワードです。

こと

アイヌ民族	80	自由民権運動	114	朝鮮戦争	155	藩籍奉還	106
足尾銅山鉱毒事件	124	守護	46	朝鮮通信使	81	百姓	70
飛鳥時代	25	書院造	55	町人文化	91	武家諸法度	74
アメリカ軍基地	162	少子高齢化	162	徴兵令	108	富国強兵	108
岩倉使節団	109	殖産興業	109	冷たい戦争・東西冷戦	154	普通選挙	127
浮世絵	91	縄文時代	9	寺子屋	93	文明開化	111
江戸	72	縄文土器	8	平安時代	32	平城京	26
江戸時代	73	条約改正	118	冬期オリンピック札幌大会	160	平城京	26
大王	18	五か条の御誓文	106	東大寺の大仏	26	奉公	47
桶狭間の戦い	68	国学	92	渡来人	18	法隆寺	22
オリンピック東京大会	160	国際連合	155	登呂遺跡	12	ボツダム宣言	144
国分寺	27	国際連盟	135	征夷大将軍	46	北方領土	163
古事記	19	政党	115	長祿の戦い	64	満州	122
古墳	16	関ヶ原の戦い	72	奈良時代	26	満州事変	134
古墳時代	17	石油危機	157	日米安全保障条約	154	身分(制)	76, 107
米作りの伝来	13	(オイルショック)	157	日米修好通商条約	103	室町時代	54
さきもり	29	尖閣諸島	163	日米和親条約	103	明治維新	106
鎖国	79	全国水平社	127	日露戦争	121	邪馬台国	15
参勤交代	75	第一次世界大戦	123	日清戦争	120	大和絵	35
三内丸山遺跡	9	大化の改新	25	日中戦争	136	大和朝廷(大和王権)	18
サンフランシスコ	137	大仙(仁徳)古墳	16	日中平和友好条約	160	やみ市	150
平和条約	154	第二次世界大戦	137	日本国憲法	153	弥生時代	13
地頭	46	大日本帝国憲法	116	日本書紀	19	弥生土器	12
洪染一揆	104	太平洋戦争	137	日本万国博覧会	160	吉野ヶ里遺跡	14
島原・天草の一揆	78	大名	54, 74	人形浄瑠璃	89	能	57
空しゅう	142	竹島	163	能	57	蘭学	94
くに	14	治外法権	103	琉球王国	106	琉球王国	80
元	46	集約社会	142	幕府	46	連合国軍総司令部	151

人名

明智光秀	69	大塩平八郎	104	聖徳太子	22	徳川家康	64	北条時宗	48
足利尊氏	54	織田信長	64	聖武天皇	26	豊臣秀吉	64	北条政子	47
足利義政	55	勝海舟	105	杉田玄白	94	中臣鎌足	25	前野良沢	94
足利義満	54	鑑真	31	清少納言	34	中大兄皇子	25	源義経	45
天草四郎	78	北里柴三郎	125	雪舟	56, 62	野口英世	125	源頼朝	45
雨森芳洲	81	水戸孝允	105	平清盛	44	卑弥呼	15	陸奥宗光	119
板垣退助	114	行基	28	竹崎季長	49	平塚らいてう	126	紫式部	34
伊藤博文	116	小村寿太郎	119	田中正造	124	福沢諭吉	110	明徳天皇	106
伊能忠敬	95	榎田嘉十郎	27	近松門左衛門	89	藤原道長	32	柳宗悦	122
岩倉具視	109	西郷隆盛	105	津田梅子	125	フランシスコ	69	山田孝野次郎	127
歌川(安藤)広重	91	斎藤隆夫	135	東郷平八郎	121	ザビエル	100	与謝野晶子	121
大久保利通	105	坂本龍馬	105	徳川家光	75				
大隈重信	115	ジャクシャイン	80						

教科書で登場した人名もさくいんページに掲載しています。

一人一人が使いやすく わかりやすい教科書

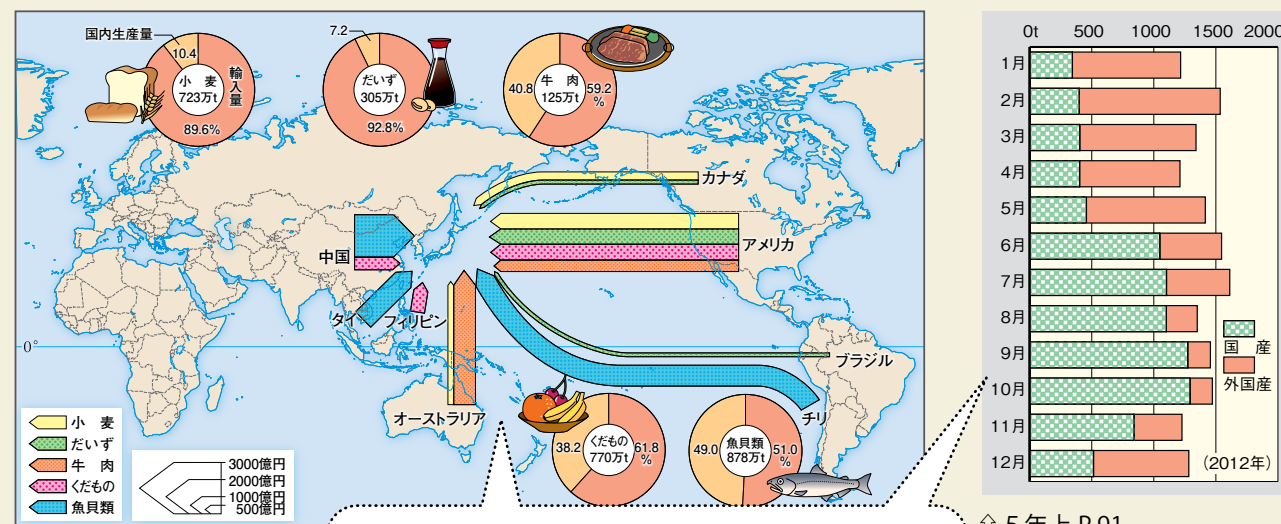
だれもがわかる教科書をめざして、特別支援教育やカラーユニバーサルデザインについて、さまざまな配慮をしました。

一人一人の子どもたちが正しく学習内容が理解できるように、教科書全体に、さまざまな配慮をしました。

なお、特別支援教育・カラーユニバーサルデザインに関する校閲については、国立特別支援教育総合研究所客員研究員大内進先生に校閲をおこなっていただきました。

ポイント
1

資料を正確に読み取ることができるよう、
見分けがつきやすい色使いをし、
合わせて網かけも使用しました。



見分けがつきやすい色使いをするとともに、色だけで識別が難しいものは、網かけも採用しています。

↑ 5 年上 P.91

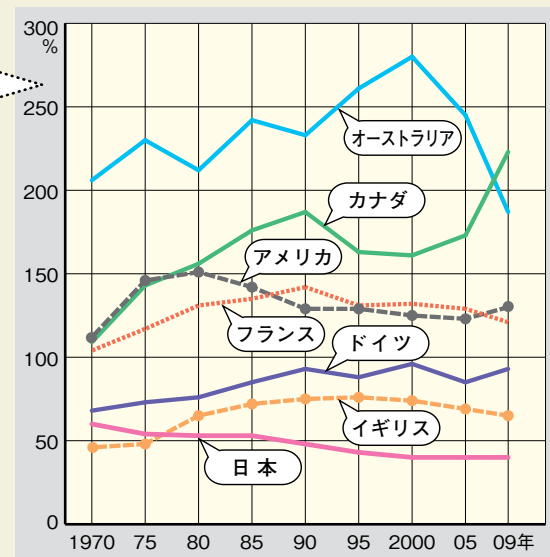
ポイント
3

色使い以外も工夫し、より見やすくしています。

国名は、凡例で示さず、引き出し線
近くに示すことで正しく読み取れる
よう、配慮しています。



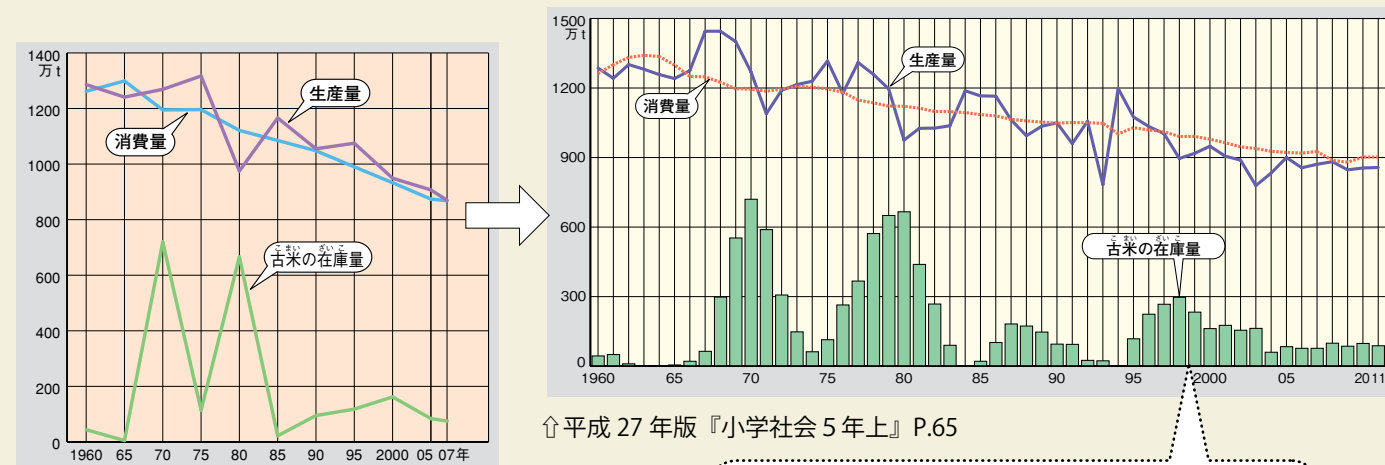
輪郭線が明確で読みやすいイラスト
を採用しました。



折れ線を太くし、また線種を変えて、
識別しやすいように工夫しました。

ポイント
2

ワイドな紙面 (A B判) を生かして
資料を大きく掲載しています。



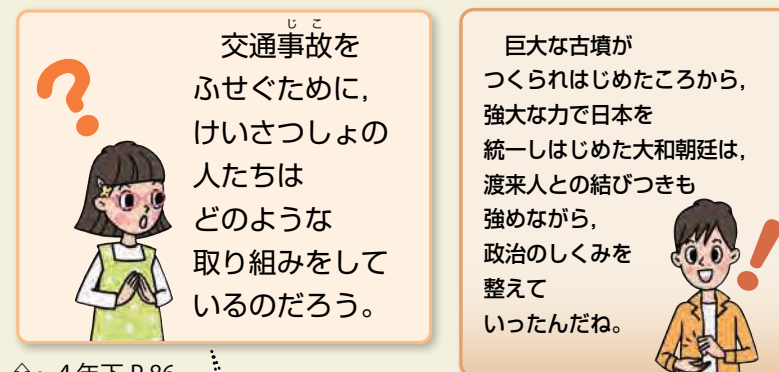
↑ 平成 23 年版『小学社会 5 年上』 P.69

グラフのサイズを大きくするとともに、古米の在庫量は棒グラフにし、消費量と生産量は2種類の線を使用し、識別しやすくしました。

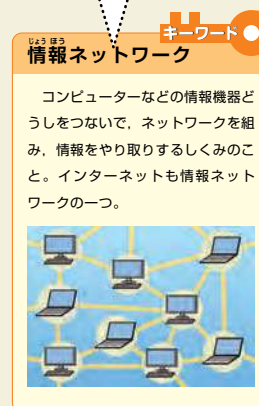
ポイント
4

より読みやすく、
さらに理解が深まるよう
工夫をしました。

社会科用語は、本文中では読みやすいように太字で示し、「キーワード」コーナーで解説しています。



「わたしの問題」や「わたしの見方・考え方」は、
読みやすいように文節で改行しています。



社会の情報化が進んで、コンピュータなどの情報機器の多くがインターネットなどの情報ネットワークで結ばれることによって、必要な情報をいち早く受け取ったり、情報を多くの人々に発信したりできるようになりました。

↑ 5 年下 P.61 「キーワード」コーナー、本文



授業づくりのための教科書活用のヒント

『小学社会』代表監修者 **安野 功**

1 問題解決的な学習の一層の充実をめざして

—「問いの旅」を活用した授業—

真新しい教科書。それを手にした子どもの目は、キラキラ輝いています。これから始まる新しい学年の社会科学習に大きな期待を寄せているからです。

新版『小学社会』では、本来“子どもは、知的好奇心に満ちあふれる有能な学び手である”という子ども観に立ち、教科書の編集を進めてきました。

子どもの自発的な問いを社会科学習の出発点とし、一人ひとりの問題意識を大切にしながら、自分の頭と体で考え、表現しながら自らの学びをつくり出していく。その過程で、共に学ぶ仲間と豊かに関わり合いながら、互いの学びを深め合っていく。そうした“子ども一人ひとりに寄り添う”問題解決学習こそが、子どものもつ潜在的な力を引き出し、伸ばすことにつながると確信しているからです。

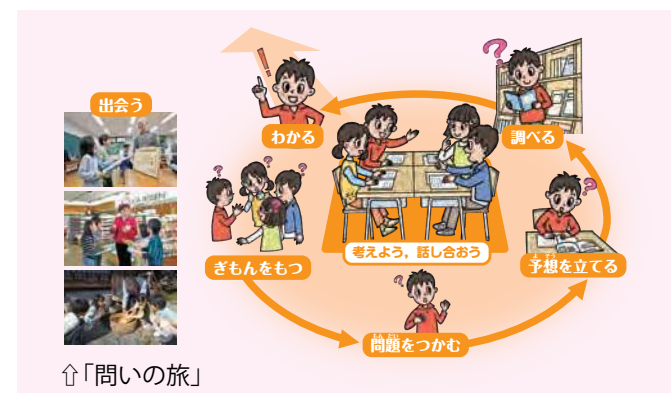
ところで、『小学社会』が求めている子どもが主役の社会科学習を実現していくには、まず、子どもが問題解決的な学習の具体的なイメージをもつようにすることが大切です。

そこで、お奨めしたいのが、教科書の「もくじ」と「問いの旅」を活用した「第3学年社会科学習はじめの一步～『問いの旅』に船出しよう～」の授業です。

例えば、第3学年では、まず、「わたしのまち・みんなのまち」と板書し、『小学社会』に登場する4人

のキャラクター「あおい・はると・ゆい・ゆうき」の拡大コピーを黒板に貼ります。そして、この4人が共に学ぶ仲間であることを伝え、「あおいさんたちは、どんなまちでくらしているのかな。」と問いかけ、教科書のもくじページを開くよう指示します。さらに、「あおいさんたちは、どんな学習をしているのかな。」と問いかけ、もくじを手がかりに自由に推理させます。写真ともくじをヒントに、新しい学年で何を学ぶのだろうという期待感を高めていくのです。

次に、「問いの旅」のページに掲載された下の写真とイラストの拡大コピーを黒板に貼ります。



そして、「あおいさんたちは、何をしているのかな。」と問い、まちの人にいろいろな質問をし、自分たちで疑問を解き明かしていることを伝えます。さらに、そうした学習を行うには、まず、「一人ひとりが自分の『?』（はてな＝疑問）を見つける」ことが何より大切であること、疑問から新しい疑問へのサイクルの連続こそが社会科学習であることに気づかせていくのです。

2 社会科に期待されている新しい使命

—「この教科書のしくみ」を活用した授業—

今、社会科に新たな期待が寄せられています。それは公共性の育成です。教育基本法・学校教育法の改正及び、それを受けて改訂された社会科の学習指導要領では、“公共的な事柄に自ら参加していく資質や能力の育成”を強く求められています。

ところで、小学校の社会科学習において公共性をどのように育てていけばよいのでしょうか。小学校学習指導要領解説社会編にそのヒントが述べられています。それを要約すると、次のようになります。

社会科の学習指導においては、各学年の目標に示されている理解、態度、能力に関する目標を統一的に身につけるようにする。その際、問題解決的な学習を一層充実させ、社会的な見方や考え方の成長を促し、それを通してよりよい社会の形成に参画する資質や能力の基礎を育てていく。

ここでは、知識・理解、観察・資料活用の技能や思考力・判断力・表現力などの諸能力、態度を一体のものとしてとらえ、それらがバランスよく総合的に身につくようにする総合社会科を堅持し、社会的な見方や考え方の成長を促す問題解決的な学習の一層の充実に努めること、それを通して社会形成・参画の基礎を育てることなど、これからの社会科学習の在るべき姿を明示しているのです。

一方、『小学社会』は、前述のとおり、問題解決的な学習の一層の充実により社会的な見方や考え方の成長を促し、それを通して社会の形成・参画の基礎を育てるという新しい方向で教科書記述の見直しを行いました。新時代の社会科に期待される新たな使命に応えられるよう、さまざまな角度から改善を加えてきたのです。今回の改訂で生まれ変わった『小学社会』の新しい姿をコンパクトに紙面化したものが、「この教科書のしくみ」です。

それでは、「この教科書のしくみ」のページを使って、どのような授業を構想し、展開していけばよいのでしょうか。



↑「この教科書のしくみ」

その具体的な授業プランは、次のとおりです。

授業プラン

- ◆前述した「第3学年社会科学習はじめの一步～『問いの旅』に船出しよう～」の後半に、上の教科書の記述を活用し、一人ひとりが自分の「?」（はてな＝疑問）を見つけた後の学習、すなわち、「わたしの問題」から「わたしの見方・考え方」までの学習が、わたしの問題の追究・解決の一つの目のサイクルであることを説明します。
- ◆次に、そこまでの問題追究の過程や結果から生まれてくる「新しい疑問」を出し合い、「みんなで話したいこと」を見つけ出し、それについての「わたしの問題」（自分が特に気になる「?」）を見つけ、その問題の追究・解決を通して1段階アップした「わたしの見方・考え方」をもつまでの学習が二つ目のサイクルであること、それを三つ目のサイクルまで行うことを伝えます。
- ◆最後に、「わたしの問題」の追究・解決の3回のサイクルを大きくふりかえり、自分の見方・考え方がどのように変わったのか、それはどんな学習によるものか、学びの成果をこれからの自分の学習や生活にどのように生かしていったらよいかなど、自分の学びの成果や成長の足跡を確認することが学習のゴールであることを伝えます。



↑ 3・4 年下 P.62～63



⇨ 5 年上 P.46～47

3 学習の見通しをもち、学ぶ意欲を高めるために

—大単元導入・小単元導入ページを活用した授業—

『小学社会』では、大単元導入・小単元導入ページを大切にしています。学習の主役である子どもと学習対象とを結びつけ、自分の生活との関係に気づかせたり、学習の見通しをもたせたりすることにより、学ぶ意欲を高めていくためです。

② (1) 大単元導入ページを活用した授業のアイデア

上のページを見てください。これは、第4学年大単元「安全な暮らしを守る」の導入ページです。このページを使って、45分の授業展開を考えてみたいと思います。

授業プラン

- ◆大単元名「安全な暮らしを守る」を板書。それに関係する実物、写真、映像、エピソードなど、例えば、大水の被害を伝えるニュース映像を見せ、「ここに住んでいる人たちは、どんな気持ちでこの濁流を見つめていたと思う。」と問いかける。
- ◆「こわい。」「不安だ。」「命だけは助かりたい。」などの被害を受けた地域住民の不安な気持ちや何とか助かりたいという切実な願いに気づかせた後、「この映像のほかにも、まちのみんなが『こわい』『起きてほしくない』と思っていることって、あるよね。思いつくことをノートにメモしよう。」と指示する。
- ◆「どんなことを思いついたか、ペアやグループで伝え合おう。」と指示する。そして、「教科書では、何を取り上げているのかな。62～63ページを

開き、みんなの考えと全く同じか、違うものも取り上げているのか比べてみよう。」と投げかける。

- ◆「火災、地震や津波は自分たちも思いついたが、交通事故や盗難は気づかなかった。確かにそれもこわいな。」などの意見を引き出す。そして、そうした災害や事件・事故に対して「まちの人たちは、こわがっているだけかな。何とかしたいと願って頑張っているよね。どんな人がいるか、予想をノートにメモしよう。」と投げかけ、災害現場で人命救助にあたりたり、火事を消し止めたりするなど、まちの人々の活動に目が向くようにする。
- ◆「どんなことを思いついたか話し合ってみよう。」と投げかけ、結果を板書に整理。さらに、「教科書の63ページを開きましょう。みんなの考えと全く同じか、違う人もいるか比べてみよう。」と投げかける。
- ◆「消防士、警察官などは自分も思いついたが、交通安全指導員さんや避難訓練(わたしたち)も関係あるとは思わなかった。」など、自分や自分たちが身近に接している人との関わりに目を向ける。
- ◆「これらの人たち(消防士、警察官、交通安全指導員など)は、だれの、どんな願いに応えようとして頑張っているのかな。自分の考えをノートにメモしよう。」と指示。そのメモをもとに話し合い、安全・安心に暮らしたいというみんなの願いをかなえようと頑張っていることに気づかせる。そして、大単元名「安全な暮らしを守る」の板書の前と途中に吹き出しを入れ(=『(〇〇〇)の安全な暮らしを(〇〇〇)で守る』)、ここには「みんな」という言葉が入ることを押さえ、教科書の「学習のまど」を読む。
- ◆最後に、一人ひとりが「強く心に残ったこと」「特に気になったこと」をノートに書いてまとめる。

(2) 小単元導入ページを活用した授業のアイデア

上のページは、大単元「わたしたちの食生活と食料生産」と最初の小単元「米作りのさかなな地域」の導入ページです。

大単元導入ページでは、給食の献立を切り口に、日々何気なく食べている食事の食材を生産する人々の存在に気づかせ、自分の食生活との関わりを考えていきます。また、小単元導入では、例えば、次のような学習活動をとおして、日本人の主食と言われてきた米と国民の食生活との関わりをさまざまな角度からとらえ、米の主な産地や生産者などに目を向けていきます。

授業プラン

- ◆教科書49ページの写真のコピーを黒板に提示し、「究極の選択だよ。みんなはご飯が好き、それともご飯以外が好き？」と問いかける。
- ◆給食の献立表を配付し、「今月の給食は、どっちの味方かな。献立表で、ご飯の回数を数えよう。」と指示する。
- ◆「みんなの家ではどっちが多いかな？」と問いか

け、家庭にお願いしておいたアンケート結果の集計(円グラフ)を提示する。

- ◆「教科書ではお米について、どんな資料が載っているかな。」と問い、次のような発言を引き出す。
 - ・国民が米を食べる量は昔と比べると減ってはいるが、他の食材と比べると多い。
 - ・米は昔から日本人の主食だったけど食生活が変化しパンなどを食べるようになったからだろう。
 - ・でも米は、郷土料理には欠かせないし、近ごろ米粉を使った食品も開発されるなど、国民の食生活には欠かせない。
- ◆「では、国民が1年間にどれくらいの米を食べているのか計算してみよう。」と投げかけ、教科書のグラフの数値をもとに算出する。
- ◆「やっぱりすごい量だね。この数字を見て疑問が浮かんでこない？」と投げかけ、「こんなに大量のお米をどこで作っているのだろう。」などの問いを引き出す。そして、「みんなが食べてる米の産地って、何を見ればわかるのかな。」と問いかけ、米の袋や広告を持ち寄るよう指示する。



↑ 5 年上 P.50～51

4 思考力・判断力・表現力などを育てるために

—「わたしの問題」を「みんなの問題」に高める授業—

前述のように、『小学社会』では、小単元導入で、学習対象と自分の生活との関わりに気づかせ、その中で一人ひとりの子どもに驚きや素朴な問いが生まれてくるように学習活動を展開していきます。

例えば、小単元「米作りのさかんな地域」の導入では、「1人1日あたりのおもな食料の消費量の変化」のグラフから日本人が今も米をたくさん食べていることや古くからさまざまな形で米を食べていることから、米とわたしたちの生活との深い関わりについて気づいていきます。

さらに、そうした学習で個々の子どもが抱いた「自分が毎日食べている米は、いったいどこでつくられているのだろう。」「わたしの県では、どれくらいの米をつくっているのかな。」「米づくり日本一の県はどこだろう。」などの特に気になる「？」(はてな＝疑問)を「わたしの問題」と名づけ、大切にしていきます。なぜなら、個々の子どもたちが抱いた疑問がその後の追究の原動力となるからです。

ここでその具体例を挙げてみます。上のページは、「わたしの学習」をとらえた子どもが、第1のステップとして問題追究に取り組むページです。

ここでは、次に示すような学習活動をととして、国民の食生活を支える米の主な産地やそこで稲作に従事する人々の工夫や努力に目が向くように学習を展開していきます。つまり、日々当たり前のように食べている米が、実は国民の食生活を支えている大

事な食料であるという見方・考え方から、米がその生産地(稲作の盛んな地域)において、人や組織によって作られた“社会の作成物”であるという見方・考え方にステップアップするための、「みんなの(わたしたちの)問題」をつかませていくのです。

授業プラン

- ◆「YさんとKさんが自分の家で食べているお米の袋をもってきてくれました。この袋を見比べて、気づいたことは何ですか。」と問い、どちらも何県でとれた米がその産地が表示してあること、米に名前がつけられていることなどに気づかせる。
- ◆「Tさんは、折り込みのちらしをもってきてくれました。それを見ると、どんなことがわかりますか。」と問い、いろいろな都道府県でとれた米が販売されていること、産地や品種によって販売価格に違いが見られることなどに気づかせる。
- ◆「みんなの家で食べている米や近所の店で売っている米の産地や種類はいろいろあるみたいだね。どこでたくさん作られているのかな。」と問い、教科書の資料の読み取り(または地図帳を活用した白地図作業)をととして、北海道や東北地方でたくさん作られていることを発見させる。
- ◆「でもね…」と言って、教科書の学習資料を黒板に提示し、「おや!何か変?と思うことをノートにメモしよう。」と投げかけ、その発表を板書で整理し、「あたたかいところで育つ稲が、日本ではなぜ寒いところでたくさんつくられているのだろう。」「(寒いところにある地域の一つである)山形県の庄内平野では、なぜ、米作りがさかんなのだろう。」という「みんなて話し合いたいこと(みんなの問題)」をつかませる。

5 観察・調査の技能、資料活用力を高めるために

—「学び方・調べ方コーナー」などを活用した授業—

社会科では、子どもが自分の体と頭を使って問題を追究・解決していく学習を大切にしています。その過程で観察・調査の技能や資料活用力を高めることが期待できるからです。

そのためには、子どもが自力で問題を追究・解決する学習を保障するとともに、教師の適切な指導・支援を工夫することが大切です。

そうした考えに立ち、『小学社会』では、「学び方・調べ方コーナー」を随所に設け、子どもの自力学習を支援するさまざまな手立てを講じています。

以下が、3・4年上「学び方・調べ方コーナー」の一覧です。

教科書の中のいろいろなコーナー	
学び方・調べ方コーナー 学び方や調べ方、表現のしかたなどがわかりやすくまとめてあります。	
見る・調べる	方位のたしかめ方……………5 まちたんけんて気をつけること……………9 電話のしかた……………30 自分たちの市(町・村)の特色のある工場の調べ方……………76 インタビューのしかた……………79 工場見学のしかた……………80 給食に使われている野菜の調べ方……………94 聞き取りのしかた……………115 インターネットの使い方……………127
読み取る	土地りよう図の読み取り方……………25 写真の読み取り方……………29 買い物調べのまとめ方・読み取り方……………53 さし絵や写真の読み取りのポイント……………54 さし絵の読み取り方……………113
表現する	スケッチのしかた……………6 発見カードの書き方……………11 地図のつくり方……………18 ガイドマップのつくり方……………42 ガイドマップを使った説明のしかた……………44 店の場所の地図へのまとめ方……………51 予想したことをあらわすポイント……………54 一人一人の予想によるグループ分けのしかた……………58 写真を使つてのまとめ方……………65 キャッチフレーズのつくり方……………71 発表のしかた……………128

↑ 3・4年上もくじ

これを見れば一目瞭然ですが、各学年の「学び方・調べ方コーナー」では、大きく三つのコーナーを設けています。

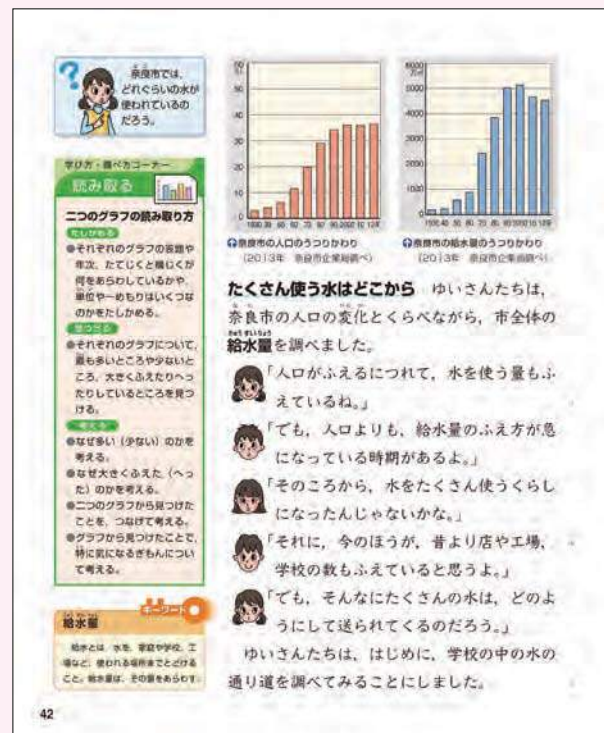
一つ目が、「見る・調べる」のコーナーです。ここでは、観察や見学・調査の仕方、作業的な学習の進

め方などのポイントを箇条書きでわかりやすく示しています。

二つ目が、「読み取る」のコーナーです。ここでは、さし絵や写真、主題図、グラフなどの資料を読み取るポイントを具体的に示しています。

三つ目が、「表現する」のコーナーです。ここでは、観察や見学・調査の予想、追究段階における発見カードやノートへのまとめ方、話し合いの仕方、地図や新聞などを用いた効果的な表現の仕方などについて、ポイントとなる解説やさまざまなアイディアを具体的に掲載しています。その一例が、次に示す「二つのグラフの読み取り方」(3・4年下「命とくらしを支える水」)です。

ここでは、市の人口と市全体の給水量の変化のグラフを関連づけて読み取る際のポイントを、「たしかめる」「見つける」「考える」の三つのステップで、具体的に解説しています。授業の実際においては、資料と「学び方・調べ方コーナー」の拡大コピーを黒板に並べて掲示し、学級のみんで資料を読み取る活動のヒントとして活用する方法、自力で問題を追究する際のヒントとして活用する方法など、学級の実態や学習の進め方に応じて、教師がその活用の仕方を工夫することが大切です。



↑ 3・4年下 P.42

確かな理解と知識の確実な定着をはかるために

—「キーワード」コーナー・さくいんなどを活用した授業—

今、各教科の指導に当たっては、基礎的・基本的な知識・技能の確実な習得が重要視されています。それらが学力の重要な構成要素であるという趣旨の規定が学校教育法に盛り込まれたからです。

ところで、社会科では、基礎的・基本的な知識・技能をどのようにとらえたらよいのでしょうか。

社会科における基礎的・基本的な知識・技能とは、学習指導要領に示す基礎・基本、すなわち、各学年の目標及び内容を支える知識・技能ととらえることが妥当です。この各教科の基礎・基本を支える基礎的・基本的な知識・技能については、次の二つの類型でとらえることもできます。一つ目が、「社会において自立的に生きる基盤として、実社会において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能」、二つ目が、「義務教育及びそれ以降の様々な専門分野の学習を深め、高度化していく上で、共通の基盤として習得しておくことが望ましい知識・技能」です。

それでは、社会科における基礎的・基本的な知識・技能をどのように抽出したらよいのでしょうか。実は、これまでその作業は各学校や教員が行ってきました。学習指導要領に示された目標及び内容は、極めて大綱的であり、それぞれの教科の基礎・基本をとらえる際の、いわばストライクゾーンであったからです。それらを支える教材レベル・授業レベルでの具体的な指導事項を決め出す作業は、各学校及び教員に委ねられてきたのです。

その現状を踏まえ、この度改訂された社会科の学習指導要領では、例えば、四方位や八方位（ある地点とある地点の位置関係をとらえる上で欠かすことのできない知識や用語）、地図記号（住宅地や商店街、田や畑、公共施設などの土地利用の様子をとらえる上で欠かすことのできない知識）など必要最小限の知識や用語を学習指導要領解説社会編の中に示しています。けれども、それらはあくまで典型例であり、そのすべてが明記されているわけではありません。

そこで、『小学社会』では、各小単元の授業展開に即して、小単元レベルでの基礎・基本及びそれらを支える基礎的・基本的な知識・技能を、次の約束を設けて具体的に記述しています。

- 小単元の知識・理解に関する基礎・基本を「わたしの見方・考え方」として明記する。
- その基礎・基本を獲得する上で大切な言葉（社会科用語）を「キーワード」コーナーとして、本文に太字で示し、その解説を側注にイラスト、写真などの図版なども交え、わかりやすい文章で明記する。
- その基礎・基本を獲得する上で必要不可欠な技能を、前述の「学び方・調べ方コーナー」で具体的に示す。

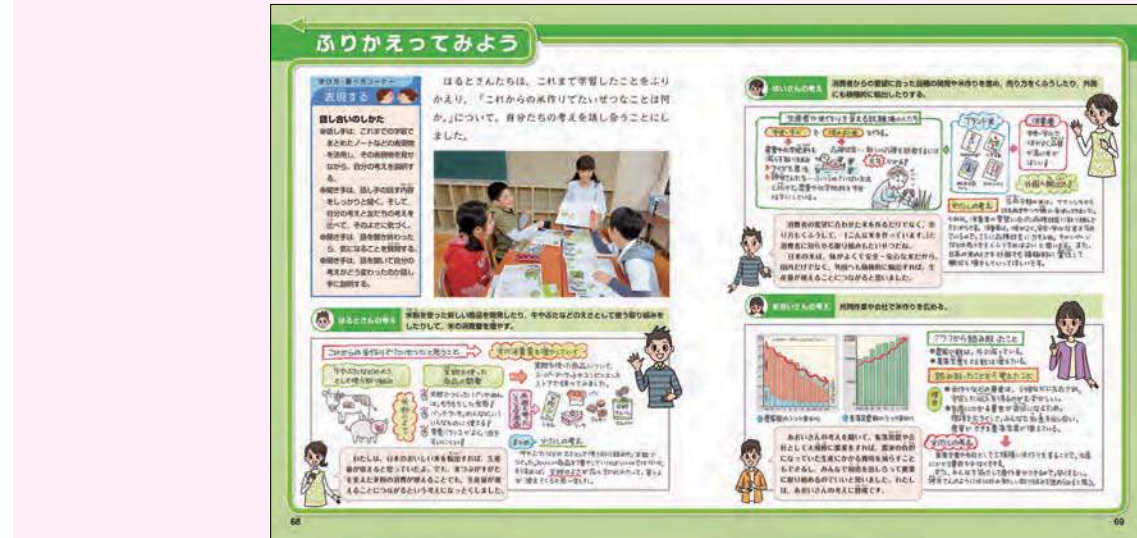


⇐5年上 P.58
「キーワード」コーナー
(ほ場整備)

なお、各学年の「キーワード」コーナーについては教科書の巻末に、その一覧を「さくいん」として掲載しています。

実際の授業においては、側注の「キーワード」コーナーの拡大コピーを黒板に貼って注意を喚起したり、「キーワード」コーナーを使った文章で、学習のまとめを行ったりするなどの活用の仕方が考えられます。また、それぞれの単元の学習を大きくふり返る場面で、巻末の「さくいん」の「キーワード」コーナーをラインマーカーでチェックするといった方法も一つの工夫です。

これらを参考にして、さまざまな活用の仕方を考え、独自の活用法を見出してほしいと願っています。



⇐5年上 P.68～69

社会形成・参画の基礎を育てるために

—「ふりかえてみよう」を活用した授業—

現行学習指導要領の総則編では、各教科の指導において、学び取ったことを子ども一人ひとりが自らふり返る活動を工夫する旨の規定を、新たに盛り込んでいます。このふり返りの学習をとおして、次のような指導の効果を期待しているのです。

- 子どもが学んだことをふり返って自ら整理・確認することで、“学習内容の確実な定着”を図る。
- “学習した内容をふり返って復習するという学習の習慣”を確立する。
- 学びの手応えを自ら実感し、“主体的に学ぶ態度や学習意欲の向上”を図る。
- 学び取ったことを活用し、“思考力・判断力・表現力などを育てる”。

これを受け、『小学社会』では、各小単元の最後の時間に、「ふりかえてみよう」の学習を位置づけ、社会科の教科の特質を踏まえた、次のような活動を提案しています。

①『**学習の成果や調べ方・学び方**』をふりかえる活動
・第4学年「ふせごう、交通事故や事件」では、まず、ここでの学習成果の一つである「自分たちの安全マップ」を活用し、自分たちが注意すべきことを発表し合う言語活動を行う。次に、そんなすごい安全マップをつくるまでの学習の足跡（問い→調べ

方・学び方）をふり返り、そうした学習を通して「自分の身は自分で守ることが大切だ。」など、学習の成果として、いま、どんな考えをもっているのかをノートにまとめる。

②**学び取ったことを「表現物に書き表す」活動**

・第5学年「水産業のさかんな地域」では、教科書の「ふり返りの手順」を参考にして、これまでの学習で学び取ったことを活用し、これからの水産業で大切なことは何かを考え、自分の主張を新聞(号外)にまとめる。

③**自分の考えを「ふりかえりシートにまとめる」活動**

・第6学年「明治の新しい国づくり」では、ここでの学習でまとめた幕末の人物の関係図の中から、明治の新しい国づくりに大きな役割をはたしたと思う人物を選び、その人物を選んだ理由を「ふりかえりシート」に文章でまとめる。

④**自分の考えを『言葉で表し、聞き合う』活動**

・第5学年「米作りのさかんな地域」では、これまでの学習をふり返り、「これからの米作りで大切なことは何か」について、自分の考えを言葉で表すとともに、友だちの意見も聞き、その考えのよさを受け入れる。(上のページを参照)

これら「ふりかえてみよう」の学習に共通しているのは、単元の学習で学び取ったことを活用した言語活動です。その活動を通して、「わたしの学び」を「わたしたちの学び」へと高め、その後の学習や実社会・実生活に生きて働く力、これからの社会を切り拓く原動力となる「社会を見る目(芽)」を育て、公共社会の形成に参画する資質や能力の基礎を養うことをめざしているのです。



PICK UP

注目の単元

『小学社会』編集委員会

注目される五つの単元

学習指導要領改訂のポイントとして、「法ときまり」、「地域の資源を保護・活用している地域」、「文化遺産」、そして、東日本大震災により、さらに注目される自然災害に関する内容があげられる。

そこで、新版『小学社会』の3・4年下「ごみのしまつと活用」と「県の人々の暮らし」、5年下「自然災害から人々を守る」、6年上「今に伝わる室町の文化と人々の暮らし」と「江戸の社会と文化・学問」でそれらがどのように取り上げられているのかを解説する。

3・4年下「ごみのしまつと活用」

～調べ方の基本や生活の中にある法やきまりを学ぶ～

1 学習指導要領改訂と「法やきまり」

学習指導要領解説において、地域の人々の健康を守るための諸活動に関する内容については、新たに「資料を活用したりして調べること」や「良好な生活環境の維持と向上に役立っていることを考えさせること」が加えられた。

また、「内容の取扱い」では、新たに「地域の社会生活を営む上で大切な法やきまり」について扱うことが加えられ、「廃棄物を資源として活用していること」を取り上げることを求めている。

○「廃棄物の処理」に関わる「法やきまり」

ごみの処理や資源の再利用に関する「法やきまり」の具体的な内容として、「自治体、町内会などの人々が協力して定めたごみの出し方や集積所などのきまり」や、「ごみの適正な処理や資源の再利用に関わる

国の法律やきまり」などがあげられる。この「法やきまり」を守って運営されていることをとらえさせることが求められている。

○地域での見学・観察と資料活用

具体的に調べる見学・観察として、学校や家庭のごみ調べ、ごみ集積所や清掃工場などの見学、インタビューや電話での質問などの活動が考えられる。

また、資料活用としては、「ごみ分別表」「ごみカレンダー」の図表や「ごみの量の変化」のグラフなど、地域の具体的な資料の活用が期待される。

2 「ごみのしまつと活用」の学習展開とは？

新版『小学社会』の「ごみのしまつと活用」の単元展開を見てみよう。

●自分たちが出すごみを調べる

- ・学校や家庭のごみ調べ  ごみ調べの進め方
- ・ごみ調べのまとめ

●ごみステーションを調べる

- ・ごみステーションの「ごみの出し方のきまり」
- ・パッカー車の人の話  インタビューのしかた

●ごみステーションで調べたことを発表する

- ・ごみ分別表（ごみの種類と分類など）
- ・ごみカレンダー（収集日など）  発表のしかた

（みんなで話し合いたいこと①）

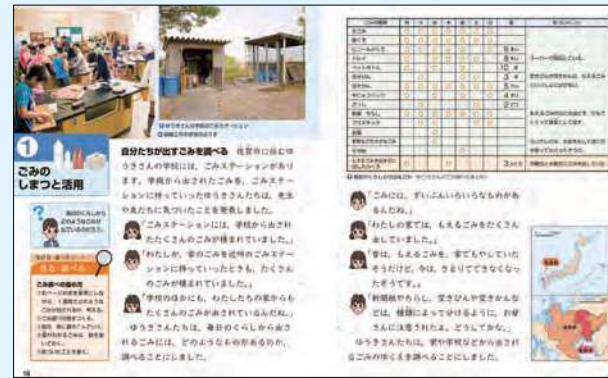
わたしたちの市のごみは、どのようにしよりにされているのだろう。

●もえるごみのゆくえ

- ・清掃工場の見学  計画メモ
- ・清掃工場の人の話  見学のしかた（巡回ルートなど調べたいことへの回答）

●清掃工場のくふう

- ・清掃工場の人の説明（工場の仕組み、臭いや煙



3・4年下 P.18～19



3・4年下 P.32～33

への対応など）  資源、エネルギー

- ・もえるごみの処理の仕組みを絵カードにする

●もえないごみのゆくえ

- ・リサイクル工場の人の話（資源の再利用への努力や工夫）  リサイクル
- ・資源化センターに運ばれるごみ
- ・学習資料（「3R」って、何かな？）

●最終しよぶん場からしよらいを考える

- ・最終しよぶん場の人への質問（汚水の処理）
- ・ごみしよりの昔と今（発表）
- ・市役所の係の人への質問（健康な生活のために）

（みんなで話し合いたいこと②）

ごみをへらすために、どうのようなくふうや取り組みがおこなわれているのだろう。

●広がるごみしよりの有料化

- ・ごみの有料化  インターネットの使い方
- ・市役所の係の人の話（ごみの有料化）
- ・ごみの量の変化  グラフの読み取り方  費用、ぜい金

●ごみをへらすための取り組み

- ・近所の店の人の話（レジ袋とマイバック）
- ・「学校版かんきょうISO」の取り組み
- ・国の法律「家電リサイクル法」の取り組み
- ・学習資料（かんきょうにやさしい燃料）

●わたしたちにできること

- ・意見交流会の開催  意見交流会のしかた
- ・トコトンリーダーの話（ごみ見まわり隊）

ふりかえってみよう

- ①学習のはじまりをふりかえる。
- ②調べる計画をふりかえる。

- ③ごみがどのようにしよりにされていたかを確認める。
- ④ごみをへらすために、自分たちでできることを考える。（子どもの意見の記述）

本単元では、小単元導入ページにおいて、子どもと学習対象であるごみを自分たちの身近な生活の中から結びつけるため、家庭や集積所でのごみ調べと話し合い活動を丹念に行い、個々の問題意識を高める中で、一つ目の「みんなで話し合いたいこと」をつかむ。そして、その問いから連続・発展するいくつかの問いを追究していくことで、新たな二つ目の「みんなで話し合いたいこと」を生み出すという学習過程をとっている。

身近な地域で体験的に調べられる利点を生かし、子どもたちの学習意欲と活動に即した「考える力を培う」学習過程といえよう。

また、本単元では「学び方・調べ方コーナー」が多数設けられている。それは、本単元が身近な地域での体験的な学習が中心であり、第4学年の最初の単元として実践されることが多いと考えられることから、調べ方の基本を学ばせようとする配慮である。

実際の単元展開にあたっては、次の点に留意し、子どもたちとともに体験的に学習を進めたい。

- 「法や自分たちが決めたきまり」を守ることが、地域の健康な生活や良好な生活環境の維持と向上を図る上で大切であることに気づかせること。
- 地域の環境保全に対する意識を高め、自分たちも廃棄物の適切な処理や再利用などに積極的に協力しようとする態度を育てること。



↑3・4年下 P.136~137



↑3・4年下 P.138~139



↑3・4年下 P.146~147

3・4年下「県の人々の暮らし」

～特色ある地域のくらし・真庭市と備前市～

1 学習指導要領の改訂と「県内の特色ある地域」

学習指導要領解説では、「県内の特色ある地域の人々の生活」については、「内容の取扱い」で新たに「自然環境、伝統や文化などの地域の資源を保護・活用している地域」が加えられ、地域事例を二つ程度を選択して取り上げることを求めている。

平成 27 年版『小学社会』では、自然環境の資源を保護・活用している地域として、多くの観光客の誘致により地域の活性化に努力している岡山県真庭市蒜山高原、そして、伝統的な工業を地域の資源として保護・活用して地域の活性化を図っている地域として、焼き物づくりが盛んな岡山県備前市が取り上げられている。

2 「県の人々の暮らし」の学習展開とは？

新版『小学社会』の「県の人々のくらし」における「ゆたかな自然を生かす真庭市」と「伝統的な工業がさかんな町、備前市」の単元展開を見てみよう。

〈小单元导入〉

- ・県内の真庭市と備前市の調べ方を話し合う。



(みんなで話し合いたいこと)

真庭市や備前市は、どのようなところなのだろう。また、どのような産業がさかんなのだろう。

（１）ゆたかな自然を生かす真庭市

●多くの観光客がおとずれる蒜山高原

- ・蒜山高原について話し合い、多くの観光客が
とずれるわけを調べる。

●自然を生かした観光地

- ・蒜山高原の観光地図や気温のグラフ、「道の駅」
の人の話などから、岡山市との違いを調べる。

●地形や気候を生かして

- ・ 蒜山高原の土地利用図や降水量グラフなどを調べ、酪農家や大根作りをしている人から自然を生かした工夫を聞く。

●地いきの未来を考える

- ・「バイオマスツアー」の話や「町おこし」をやっている人の話を聞く。  **町おこし**

（２）伝統的な工業がさかんな町，備前市

●備前焼づくりにちょうせん

- ・「岡山県こども備前焼作品展」への作品出品
- ・備前焼についての話し合い、二つの備前焼を比べる。 計画メモ

●備前焼づくりのさかな地いき

- ・焼き物づくりが盛んな理由を調べる。
- ・備前焼伝統産業会館の人の話（備前市で焼き物作りが盛んになった理由）

●備前焼ができあがるまで

- ・ 備前焼作家・伊勢崎淳さんの工房の見学
- ・ 8枚の写真に「作業のことば」を書き込む。
- ・ 備前焼作家の話（焼き物づくりの苦労や工夫）

●**伝統を守り，伝える**

- ・備前焼作家の話（伝統を守り、新しい備前焼）
- ・備前焼について考えたことを話し合う。

●パンフレットでPRしよう

- ・ 蒜山高原や備前焼のパンフレットをつくる。

「せんたく」ページ（選択教材）

「美しい星空を守る（井原市美星町）」

- ・美星天文台の人の話

「たいせつな植物を守る（新見市西部）」

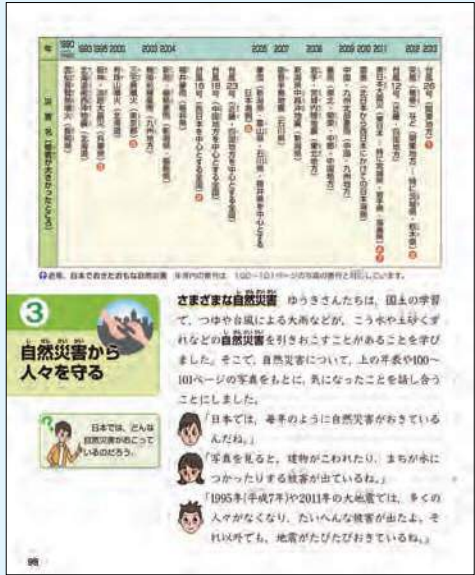
- ・清掃活動をする人の話

「古い町なみを守る（倉敷市美観地区）」

- ・そうじボランティアに参加する子どもの話

単元の導入では、岡山県内から北部の真庭市と東部の備前市の二地域を取り上げ、両市の地域の様子と産業の様子を調べる問い（みんなで話し合いたいこと）を提示し、各々両市について学習展開を進めている。

「ゆたかな自然を生かす真庭市」における学習展開



5 年下 P.98, 100～101



5 年下「自然災害から人々を守る」 ～自然災害の防止と 国民生活とのかかわり～

1 学習指導要領の改訂と「自然災害の防止」

本単元の「自然災害の防止」に関わる学習は、社会科における防災教育の要となり、命の尊さと生きていくことの大切さを学ぶ重要な単元である。

学習指導要領解説においては、新たに加えられた「自然災害の防止」について調べる内容を、「自然災害の防止と国民生活とのかかわりを取り上げ、我が国の国土では地震や津波、風水害、土砂災害、雪害などの様々の自然災害が起りやすいこと、その被害を防止するために国や県などが様々な対策や事業を進めていることなどを調べること」としている。

また、この学習を通して、「環境保全のために国民一人一人の協力が必要であることや、自然災害が起りやすい我が国においては、日ごろから防災に関する情報に関心をもつなど、国民一人一人が防災意識を高めることが大切であることについても気付くように配慮すること」や、「国土の環境が人々の生活や産業と密接な関係をもっていることを考えることができるようにすること」を求めている。

2 「自然災害から人々を守る」の展開とは？

新版『小学社会』の「自然災害から人々を守る」の単元展開を見てみよう。

●さまざまな自然災害

- ・自然災害の年表や写真をもとに、日本の自然災害（台風、土石流、高潮、地震、津波、竜巻、大雪、火山の噴火）について話し合う。



自然災害

●自然災害がおきやすい国土

- ・地震や津波がおこるしくみと世界の主な地震の発生場所を調べる。
- ・気候と自然災害の関係を調べる。

(みんなで話し合いたいこと①)

自然災害がおきると、わたしたちのくらしや産業にどのようなえいきょうがあるのだろう。

●困難なくらしと支え合う人々

- ・阪神・淡路大震災の被害にあった人たちのくらしのようすを調べる。  ライフライン
- ・阪神・淡路大震災で被害にあった人の話
- ・ **学習資料**（災害時の日本人のすがた）

●産業へのえいきょう

- ・東日本大震災が、水産業、農業、自動車部品工場などの産業に与えた影響を調べる。
- ・ **学習資料**（福島第一原子力発電所の事故）

(みんなで話し合いたいこと②)

自然災害から命やたいせつなものを守るために、どのような備えや取り組みがおこなわれているのだろう。

●自然災害に備えるために

- ・防災のしせつを調べる。
- ・府庁の人の話  防災、減災



5 年下 P.106～107



5 年下 P.110～111

●自然災害から命を守る情報

- ・国や市町村の情報の伝え方を調べる。
- ・ハザードマップを詳しく調べる。
- ・ **学習資料**（一人一人の判断が命を救う）

●自分たちの地域は自分たちで守る

- ・阪神・淡路大震災などでの「自助・共助・公助」を調べる。
- ・防災福祉コミュニティの人の話（自助・共助の大切さ）  自助、共助、公助

ふりかえってみよう

ゆい…地域の危険な場所を確かめておく。
ゆうき…防災情報を家族と共有する。
あおい…自然災害による被害を語りつぐ。
はると…地域で結びつきを大切にする。

本単元において、単元の導入として日本の多様な自然災害とその被害のようすなどを調べ、自然災害のくらしや産業への影響、自然災害に備えるための取り組みについて様々な資料の活用を図りながら、具体的に追究している。

資料を活用する上での留意点として、子ども自身が自然災害の防止の情報を集め、具体的に調べるためには、自然災害は地域によって異なることから、各校の子どもたちが興味をもって追究する自然災害の写真や動画などの資料を発掘することが大切である。また、想定外の大規模災害では、自助と共助が前提となつての公助であることに気づかせる資料の発掘と指導が必要となる。

3 他学年の自然災害に関する単元と配慮事項

『小学社会』において、①学習指導要領の学習内容に深く結びつく自然災害や防災に関する単元は、中学年「安全なくらしを守る」の選択教材「地しんにそなえて」、5 年「国土の環境を守る」の「自然災害から人々を守る」、6 年「わたしたちのくらしと政治」の選択教材「災害の発生と政治のはたらき」である。

また、②学習指導要領の内容が災害や防災以外で、地域の開発の視点から教材として扱われている単元が、中学年「地域のはってんにつくした人々」の「よみがえらせよう、われらの村」である。

その他、単元扱いとしてではなく、③防災教育との関連をふれる程度に扱われている中学年「わたしたちの市のようす」における「公共施設の場所や働き」の「ぼうさいセンター」である。

こうしたふれる程度の扱い方は、実際の学習活動においては、3・4 年の身近な地域に残る「受け継がれてきた文化財としての砂防施設、防災に関わる碑や言い伝え」、「飲料水、電気、ガスの確保」に関連しての「災害発生時におけるインフラの破壊」、5 年の「情報化した社会の様子」での「防災事例」、6 年の「国際協力」における「外国での巨大地震や津波への国際貢献活動」など、多くの事例が考えられる。

単元の内容が防災教育に深く結びつく①の場合には、取り扱い方として問題は生じないが、教材レベルで防災教育と関連している②や、ふれる程度の③の場合においては、単元の固有な学習内容と防災教育が目指していることとのくい違いが生じる恐れがあり、ここでは、単元固有の学習内容と目標を第一義に考えることが重要である。



◇6 年上 P52～63



◇6 年上 P84～85

6 年上「今に伝わる室町の文化と人々の暮らし」 「江戸の社会と文化・学問」

～文化遺産の活用とその取り上げ方～

1 文化遺産を活用した文化に関する学習の重視

これまで第6学年の歴史学習においては、我が国の伝統や文化の学習を一層重視して、「室町文化、町人の文化や新しい学問に関する内容」をそれぞれ独立した項目にし、「『建造物や絵画』、『歌舞伎や浮世絵』や『国学や蘭学』」について、それぞれいずれかを選択して取り上げるようになっていたが、この項目が削除された。

新たに「例えば、国宝、重要文化財に指定されているものや、そのうち世界文化遺産に登録されているものなどを取り上げ、我が国の代表的な文化遺産を通して学習できるように配慮すること」が加えられた。こうした学習指導要領の内容の改善にそって、新版『小学社会』では、6年上で「今に伝わる室町の文化と人々の暮らし」(P.52～63)と「江戸の社会と文化・学問」(P.84～99)を単元として新たに設定している。

2 「今に伝わる室町の文化と人々の暮らし」 「江戸の社会と文化・学問」の学習展開とは？

新版『小学社会』の「今に伝わる室町の文化と人々の暮らし」の単元展開を見てみよう。

〈小単元導入〉

- ・「洛中洛外図屏風」を見て、当時の人々のようすや暮らしを調べる。



祇園祭

(みんなで話し合いたいこと)

今から600年ほど前に生まれた文化と、今の

わたしたちの暮らしとのあいだには、どのような関わりがあるのだろう。

1 室町文化が生まれる

●金閣と銀閣を調べる

- ・足利義満と金閣、義政と銀閣、応仁の乱について調べる。



大名、応仁の乱

●今に伝わる室町文化

- ・力強さや簡素さをもった新しい文化（書院造と石庭、水墨画と雪舟、能と狂言など）を調べる。



能、狂言

●鎌倉・室町時代を生きた人々のくふうや努力

- ・鎌倉・室町時代の農民や商工業者の暮らしを調べる
- ・**学習資料**（団結する村の人々）

ふりかえってみよう

- ・足利義満が建てた金閣と義政が建てた銀閣を比べる。
- ・東求堂の書院造と現在の和室を比べる。
- ・ふりかえりシートにまとめる。

大きくジャンプ 都の文化が全国に広がる

- ・山口市が、どうして「西の京」と呼ばれるようになったのかを調べる。
- ・大内氏のもとで、どのような人々が活躍したのかを調べる。
- ・今の山口市のようすを調べる。
- ・文化財の種類を調べ、その意味について考える。

導入の資料として、京都の町中と郊外、多くの物を描いた国宝「洛中洛外図屏風」が取り上げられ、その観察から「みんなで話し合いたいこと」として、室町文化と現在の人々の暮らしの関わりが設定されている。

展開においては、建造物として足利氏が建てた金閣（再建）と銀閣（国宝）、今に伝わる室町文化として東求堂の書院造（国宝）と龍安寺の石庭（国の史跡）、雪舟の水墨画（国宝）、能と狂言、鎌倉・室町時代の農民や商工業者の人々の暮らしなどを調べ、それらを振り返るまよめの学習を最後に行っている。

国宝など多くの文化財にふれ、室町文化に関心を深め、その文化と現在の人々との関わりが体験的に理解できるよう展開している。また、室町文化の全国への広がりとして、「大きくジャンプ」では、山口市に残された多くの文化遺産を詳しく紹介している。次に、「江戸の社会と文化・学問」の単元展開を見てみよう。

〈小単元導入〉

- ・「江戸図屏風」を見て、江戸のまちや人々のようすについて調べる。

(みんなで話し合いたいこと①)

江戸時代の人々は、どんなくらしをしていたのだろう。

1 人々のくらしのようす

●さかになった産業

- ・農業生産の向上と各地の特産物を調べる。
- ・**学習資料**（食事を楽しむ）

●力をつける町人

- ・商人と職人のくらしのようすを調べる。



五街道

(みんなで話し合いたいこと②)

平和で安定したくらしを送っていた江戸時代の人々は、何を楽しみとしていたのだろう。

2 町人文化と新しい学問

●町人文化の広がり

- ・近松門左衛門と人形浄瑠璃、歌舞伎、浮世絵などの町人文化を調べる。
- ・**学習資料**（今も受けつがれている江戸時代の人々の楽しみ）

●国学の広がりと子どもの教育

- ・本居宣長と国学、寺子屋などを調べる。

●蘭学のはじまり

- ・杉田玄白や前田良沢らが翻訳した「解体新書」について調べる。
- ・伊能忠敬によってつくられた正確な日本地図について調べる。

ふりかえってみよう

- ・江戸時代の文化を図にして話し合う。
- ・あおい…文化が広まった理由
- ・はると…学問が広がった理由
- ・ゆうき…そのころの社会のようす

導入の絵画資料として、3千人以上のさまざまな人物やにぎわいを見せる城下町を細かく描いた「江戸図屏風」を取り上げ、その中で、江戸時代の人々のくらしについての「みんなで話し合いたいこと①」を設定している。

「人々のくらしのようす」では、農業や漁業などの産業のようすや店のようすを描いた絵画、地図などを活用し、江戸時代の人々のくらしのようすを調べ、江戸時代の人々の楽しみを追究する「みんなで話し合いたいこと②」を設定している。

「町人文化と新しい学問」においても、浮世絵などの絵画資料や地図資料をもとに、近松門左衛門と人形浄瑠璃、歌舞伎、浮世絵などの町人文化や、本居宣長と国学、杉田玄白や前田良沢らが翻訳した「解体新書」、伊能忠敬の正確な日本地図などの新しい学問について追究し、「ふりかえってみよう」で、江戸時代の文化を4人の子どもの話し合いでまとめている。

3 絵画資料の活用と体験的な活動の取り扱い

二つの単元の導入として取り上げられた屏風絵は、近代の絵画と比べ大変大きく、描かれている内容は膨大なものである。教科書に掲載されている図は、屏風の一部を取り上げていることから、実際の授業においては、屏風全体が描かれた資料が必要になる。

こうした内容が豊富な歴史的な資料については、インターネット上で博物館の学芸員の解説を調べたり、博物館の見学などをして、歴史的な絵画を具体的に学ぶ機会を設けることも大切である。

室町文化の能や茶の湯、水墨画などの授業、伊能忠敬の全国測定の授業などにおいては、体験や体験的な活動を工夫することも関心を高めるであろう。

体験や体験的な活動を学習展開に入れる場合、年間指導計画や単元計画において、扱う時数に軽重をつけ、計画的に行うことが重要である。

授業力アップをサポート！ 教師用指導書・デジタル教科書のご案内

教師用指導書

全学年にわたる共通事項や学年間の関連を考える際に役立つ内容をまとめた「総論」と、各学年の分冊になっています。各学年の指導書は、各巻（全6巻）とも「研究編」「朱書編」の2分冊で構成され、「付録 CD-ROM」をセットしています。

【研究編】

■その巻の全体像をつかみ、関連情報をまとめた総説編と、毎時間の指導展開と学習のねらい、評価規準、資料の解説などを具体的に示した指導編の二部構成となっています。

【朱書編】

■朱書編は、教科書の縮刷版です。主発問、板書のポイント、リアルな板書例、教科書掲載の資料の活用方法など、授業ですぐに役立つ情報が掲載されています。今回、判型を A4 判に変更することで、さらに内容を充実させています。

【付録 CD-ROM】

■評価テスト集、ワークシート、イラストカット集、年間指導計画案などの資料が収録されています
※今後、この内容から変更する場合がございます。

朱書編



研究編



45 分の授業イメージが ひとめでわかる板書例



平成27年(2015年)春発売予定

デジタル教科書

デジタル教科書は、平成 27 年度版教科書に準拠したソフトウェアとして、電子黒板や大型のデジタルテレビなどの提示機器や、個人端末（タブレット PC）を利用してご活用いただけます!!

■拡大図版の充実

従来よりも更に多くの図版を拡大表示できるようにします。写真一枚からの授業展開が可能です。また、動画資料も豊富に準備します。

■充実した補足資料

授業の流れを妨げない範囲で、教科書の内容を適切に補足できる資料を用意します。
表やグラフ、地図は、凡例・項目ごとに分けて表示することができます。

■補助教材と紙面の連動

授業で参照する地図や年表などは、同一画面で常に表示できます。繰り返し利用することによって、学習の定着の手助けとなります。
※その他にも、特別支援教育に配慮した機能も搭載いたします。

このページに画面を合わせると、動画が始まります。



●地図やグラフは凡例ごとに表示を切り替えることができます！



●自由なタイミングで解説を表示できるので、授業の進展に応じた展開が可能です。



共通
ビューア

CoNETS (コネッツ)
「共通ビューア」を採用します！

ここでご紹介しているデジタル教科書は、CoNETSの「共通ビューア」を採用して開発いたします。次世代のデジタル教科書に求められる機能を搭載した仕様になっています。

小学社会 デジタル教科書 5年 6年

【媒体】DVD-ROM 版、ネットワーク版(予定)

【価格】価格未定

※その他、動作環境などにつきましては「共通ビューア」を開発する CoNETS 公式サイトより順次お知らせいたします。

体験版のご案内

体験版(DVD-ROM)には、各教科の動画やシミュレーションなどのコンテンツと、CoNETS「共通ビューア」の様々な機能に関する説明を収録しています。※コンテンツの一部を収録しています。※商品版と内容は異なる場合があります。

体験版 収録コンテンツリスト

	学年	単元名など	コンテンツ名	種類
小学社会	5年上	2 わたしたちの食生活と食料生産 1 米作りのさかんな地域	1人1日あたりのおもな食料の消費量の変化	シミュレーション
			米の作付面積	シミュレーション
			北西季節風と南東季節風	シミュレーション
			山形県庄内平野のようす	写真・地図
			田おこし〜出荷準備	動画
	6年上	2 貴族の政治とくらし 1 新しい国づくりをめざす 2 貴族が生み出した新しい文化	ほ場整備前とほ場整備後	拡大
			冠位十二階	拡大
			十七条の憲法	スライド
			万葉集	語句説明
			シルクロードと遣唐使の行路	シミュレーション
			藤原道長のやしきのようす	シミュレーション
			大和絵(源氏物語絵巻)	シミュレーション

お問い合わせ

弊社Webサイト「ご要望・お問い合わせ」よりお願い致します。<http://www.nichibun-g.co.jp/>